

【表紙】

| | |
|--|------------------|
| 【提出書類】 | 訂正有価証券届出書 |
| 【提出先】 | 関東財務局長殿 |
| 【提出日】 | 平成26年7月25日提出 |
| 【発行者名】 | 日興アセットマネジメント株式会社 |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役 村上 雅彦 |
| 【本店の所在の場所】 | 東京都港区赤坂九丁目7番1号 |
| 【事務連絡者氏名】 | 雄谷 敦史 |
| 【電話番号】 | 03-6447-6147 |
| 【届出の対象とした募集（売出）内国投資 信託受益証券に係るファンドの名称】 | 日興アクティブバリュー |
| 【届出の対象とした募集（売出）内国投資 信託受益証券の金額】 | 5兆円を上限とします。 |
| 【縦覧に供する場所】 | 該当事項はありません。 |

1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

半期報告書を提出しましたので平成26年 1月24日付をもって提出しました有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）の関係情報を新たな情報に訂正するため、また、記載事項の一部に訂正事項がありますのでこれを訂正するため、本訂正届出書を提出します。

2【訂正の内容】

<訂正前>および<訂正後>に記載している下線部_____は訂正部分を示し、<更新後>に記載している内容は原届出書が更新されます。なお、「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 5 運用状況」は原届出書の更新後の内容を記載しています。また、原届出書の「第二部 ファンド情報 第3 ファンドの経理状況」に「中間財務諸表」の記載事項が追加されます。

第一部【証券情報】

(5) 【申込手数料】

<更新後>

販売会社が定めるものとします。申込手数料率につきましては、販売会社または「(8) 申込取扱場所」の照会先にお問い合わせください。

- ・販売会社における申込手数料率は3.24%（税抜3%）が上限となっております。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(3)【ファンドの仕組み】

<更新後>

委託会社の概況（平成26年5月末現在）

1) 資本金

17,363百万円

2) 沿革

昭和34年：日興証券投資信託委託株式会社として設立

平成11年：日興国際投資顧問株式会社と合併し「日興アセットマネジメント株式会社」に社名変更

3) 大株主の状況

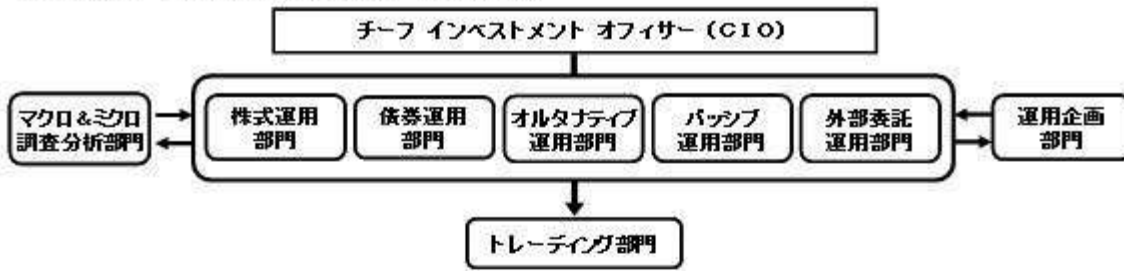
| 名 称 | 住 所 | 所有株数 | 所有比率 |
|---------------|---|--------------|--------|
| 三井住友信託銀行株式会社 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 | 179,869,100株 | 91.29% |
| DBS Bank Ltd. | 6 Shenton Way, #46-00, DBS Building Tower One, Singapore 068809 | 14,283,400株 | 7.24% |

2【投資方針】

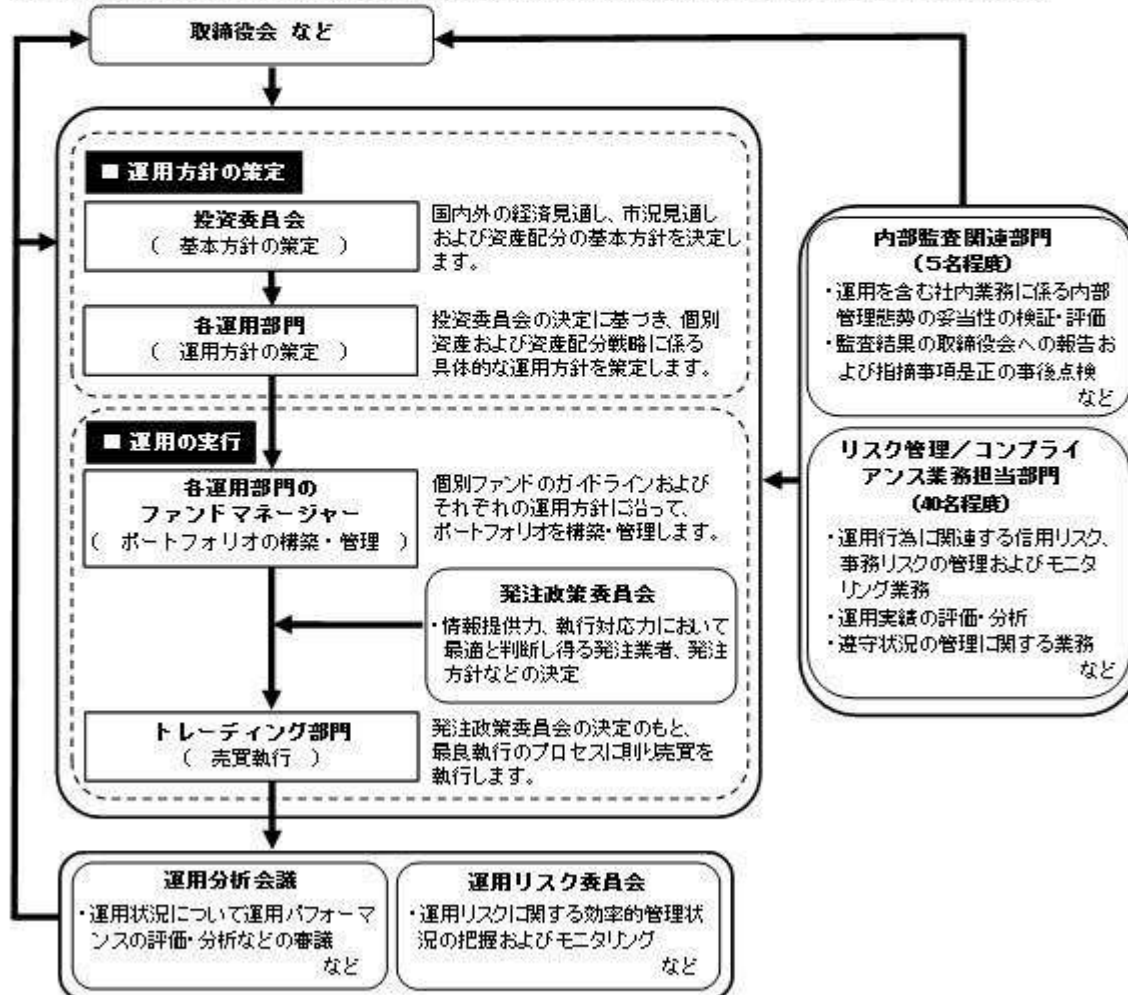
(3)【運用体制】

<更新後>

◆委託会社における運用体制は以下の通りです。



◆委託会社の運用体制における内部管理および意思決定を監督する組織などは以下の通りです。



委託会社によるファンドの関係法人（販売会社を除く）に対する管理体制

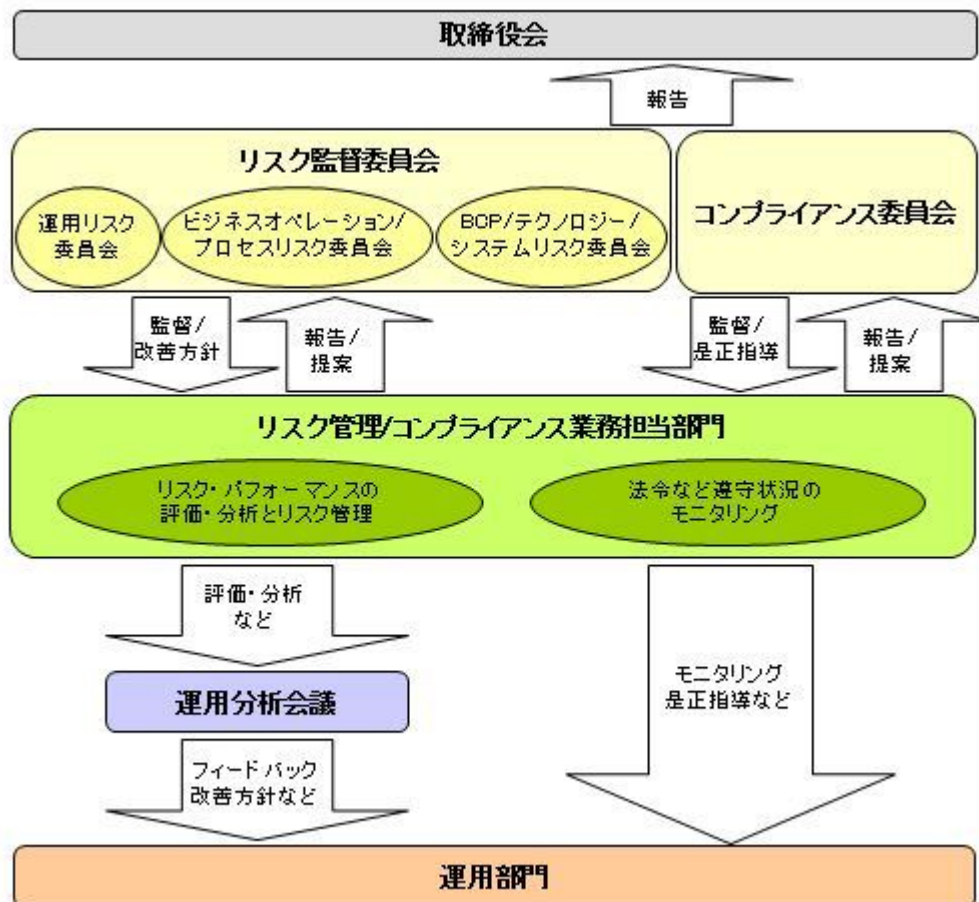
「受託会社」に対しては、日々の純資産照会、月次の勘定残高照会などを行っております。また、独立した監査法人が所定の手続きで受託業務について監査を行っており、内部統制が有効に機能している旨の監査報告書を定期的に受け取っております。

上記体制は平成26年5月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

3【投資リスク】

<更新後>

(2) リスク管理体制



全社的なリスク管理

当社では運用部門、営業部門と独立した組織であるリスク管理部門を設置し、全社的なリスク管理活動のモニタリング、指導の一元化を図っております。当社グループの法令などの遵守状況およびリスク管理状況については、リスク管理部門が事務局を務めるリスク監督委員会を通して経営陣に報告され、更に年一度以上取締役会に対して全体的な活動状況を報告しております。本委員会およびその部門別委員会においては、各種リスク（運用リスク、事務リスク、システムリスクなど）に関するモニタリングとその報告に加えて、重大なリスクの洗い出し、より予防的なリスクの軽減に繋がる施策、管理手法の構築などに努めております。

リスク・パフォーマンスの評価・分析とリスク管理

ファンド財産について運用状況の評価・分析と運用プロセスおよびリスク運営状況のモニタリングを行いません。運用パフォーマンスおよびリスクに係る評価と分析の結果については運用分析会議に報告し、リスク管理状況についてはリスク監督委員会あるいはその部門別委員会へ報告され、問題点の原因の究明や改善策策定が図られます。加えて外部委託運用部門は、外部委託ファンドの運用管理を行ない、投資方針に沿った運用が行なわれているかなどのモニタリングを行なっています。

法令など遵守状況のモニタリング

運用における法令・諸規則、信託約款などの遵守状況については、リスク管理/コンプライアンス業務担当部門が管理を行いません。問題点についてはリスク管理/コンプライアンス関連の委員会に報告され、必要に応じ運用部門に対し是正指導が行なわれるなど、適切に管理・監督を行いません。

上記体制は平成26年5月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

<更新後>

販売会社が定めるものとします。申込手数料率につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。

- ・販売会社における申込手数料率は3.24%（税抜3%）が上限となっております。
- ・申込手数料の額（1口当たり）は、取得申込受付日の基準価額に申込手数料率を乗じて得た額としま

す。

- ・ < 分配金再投資コース > の場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、申込手数料はかかりません。
- ・ 販売会社によっては、償還乗換、乗換優遇の適用を受けることができます場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

(3) 【信託報酬等】

< 更新後 >

信託報酬

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に対し年1.6416%（税抜1.52%）の率を乗じて得た額とします。

信託報酬の配分

信託報酬の配分は、以下の通りとします。

| 販売会社毎の純資産総額 | 信託報酬率（年率） | | | |
|-------------|-----------|-------|-------|-------|
| | 合計 | 委託会社 | 販売会社 | 受託会社 |
| 300億円以下の部分 | 1.52% | 0.62% | 0.80% | 0.10% |
| 300億円超の部分 | | 0.52% | 0.90% | |

表中の率は税抜です。別途消費税がかかります。

支払時期

信託報酬（信託報酬に係る消費税等相当額を含みます。）は、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日（当該終了日が休業日の場合はその翌営業日とします。）および毎計算期末または信託終了のときに、信託財産から支払います。

(5) 【課税上の取扱い】

< 更新後 >

課税上は、株式投資信託として取り扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。

個人受益者の場合

1) 収益分配金に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については配当所得として、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収（原則として、確定申告は不要です。）が行なわれます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用があります。）のいずれかを選択することもできます。

2) 解約金および償還金に対する課税

解約時および償還時の差益（譲渡益）^{*}については譲渡所得として、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による申告分離課税の対象となり、確定申告が必要となります。なお、源泉徴収ありの特定口座（源泉徴収選択口座）を選択している場合は、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収（原則として、確定申告は不要です。）が行なわれます。

^{*} 解約価額および償還価額から取得費用（申込手数料および当該手数料に係る消費税等相当額を含みます。）を控除した利益

確定申告等により、解約時および償還時の差損（譲渡損失）については、上場株式等の譲渡益および上場株式等の配当等（申告分離課税を選択したものに限り、）と損益通算が可能です。また、解約時および償還時の差益（譲渡益）および普通分配金（申告分離課税を選択したものに限り、）については、上場株式等の譲渡損失と損益通算が可能です。

少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合

少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」をご利用の場合、毎年、年間100万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象

となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

法人受益者の場合

1) 収益分配金、解約金、償還金に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の個別元本超過額については配当所得として、15.315%（所得税のみ）の税率による源泉徴収が行なわれます。源泉徴収された税金は、所有期間に応じて法人税から控除される場合があります。

2) 益金不算入制度の適用

原則として、益金不算入制度が適用されます。

買取請求による換金の際の課税については、販売会社にお問い合わせください。

個別元本

1) 各受益者の買付時の基準価額（申込手数料および当該手数料に係る消費税等相当額は含まれません。）が個別元本になります。

2) 受益者が同一ファンドを複数回お申込みの場合、1口当たりの個別元本は、申込口数で加重平均した値となります。ただし、個別元本は、複数支店で同一ファンドをお申込みの場合などにより把握方法が異なる場合がありますので、販売会社にお問い合わせください。

普通分配金と元本払戻金(特別分配金)

1) 収益分配金には課税扱いとなる「普通分配金」と非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(元本の一部払戻しに相当する部分)の区分があります。

2) 受益者が収益分配金を受け取る際

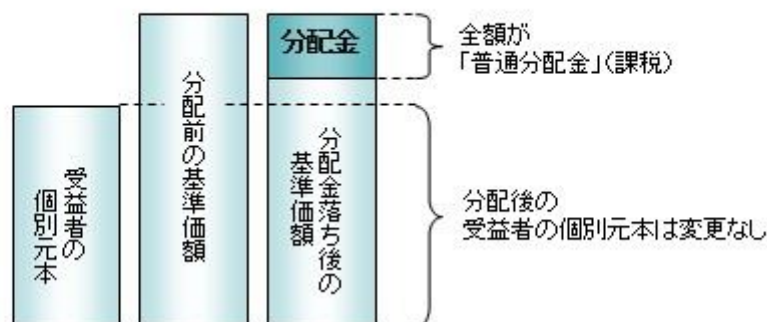
イ) 収益分配金落ち後の基準価額が、受益者の1口当たりの個別元本と同額かまたは上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。

ロ) 収益分配金落ち後の基準価額が、受益者の1口当たりの個別元本を下回っている場合には、収益分配金の範囲内でその下回っている部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、収益分配金から元本払戻金(特別分配金)を控除した金額が普通分配金となります。

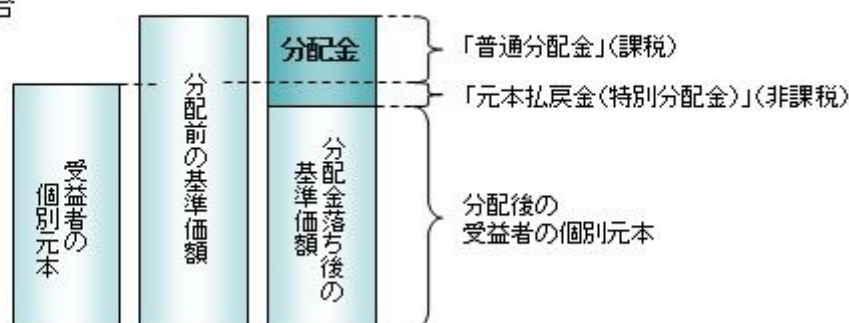
ハ) 収益分配金発生時に、その個別元本から元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の受益者の個別元本となります。

<分配金に関するイメージ図>

イ) の場合



ロ)、ハ) の場合



上記は平成26年 7月25日現在のものですので、税法が改正された場合などには、税率などの課税上の取扱いが変更になる場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家などにご確認されることをお勧めします。

5【運用状況】

【日興アクティブバリュー】

以下の運用状況は2014年 5月30日現在です。

・投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(1) 【投資状況】

| 資産の種類 | 国・地域 | 時価合計(円) | 投資比率(%) |
|-----------------------|------|---------------|---------|
| 親投資信託受益証券 | 日本 | 2,972,415,107 | 99.51 |
| コール・ローン等、その他資産(負債控除後) | | 14,575,836 | 0.49 |
| 合計(純資産総額) | | 2,986,990,943 | 100.00 |

(2) 【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

イ. 評価額上位銘柄明細

| 国・地域 | 種類 | 銘柄名 | 数量又は 額面総額 | 簿価 単価 (円) | 簿価 金額 (円) | 評価 単価 (円) | 評価 金額 (円) | 投資 比率 (%) |
|------|-----------|-------------------|---------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 日本 | 親投資信託受益証券 | アクティブバリュー マザーファンド | 1,374,781,512 | 2.0759 | 2,853,908,941 | 2.1621 | 2,972,415,107 | 99.51 |

ロ. 種類別の投資比率

| 種類 | 投資比率(%) |
|-----------|---------|
| 親投資信託受益証券 | 99.51 |
| 合計 | 99.51 |

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

| 期別 | 純資産総額(百万円) | | 1口当たり純資産額(円) | |
|--------------------------|------------|-------|--------------|--------|
| | 分配落ち | 分配付き | 分配落ち | 分配付き |
| 第7計算期間末 (2004年10月25日) | 4,862 | 4,862 | 0.9307 | 0.9307 |

| | | | | | |
|----------|---------------|-------|-------|--------|--------|
| 第8計算期間末 | (2005年10月25日) | 5,648 | 5,691 | 1.2969 | 1.3069 |
| 第9計算期間末 | (2006年10月25日) | 7,135 | 7,180 | 1.5773 | 1.5873 |
| 第10計算期間末 | (2007年10月25日) | 4,970 | 5,003 | 1.4917 | 1.5017 |
| 第11計算期間末 | (2008年10月27日) | 2,562 | 2,562 | 0.7292 | 0.7292 |
| 第12計算期間末 | (2009年10月26日) | 2,940 | 2,940 | 0.9451 | 0.9451 |
| 第13計算期間末 | (2010年10月25日) | 2,424 | 2,424 | 0.8530 | 0.8530 |
| 第14計算期間末 | (2011年10月25日) | 2,131 | 2,131 | 0.7923 | 0.7923 |
| 第15計算期間末 | (2012年10月25日) | 2,065 | 2,065 | 0.8243 | 0.8243 |
| 第16計算期間末 | (2013年10月25日) | 3,088 | 3,110 | 1.4007 | 1.4107 |
| | 2013年 5月末日 | 2,606 | | 1.3153 | |
| | 6月末日 | 2,649 | | 1.3048 | |
| | 7月末日 | 2,704 | | 1.3239 | |
| | 8月末日 | 2,644 | | 1.2926 | |
| | 9月末日 | 3,156 | | 1.4211 | |
| | 10月末日 | 3,132 | | 1.4113 | |
| | 11月末日 | 3,082 | | 1.4869 | |
| | 12月末日 | 3,124 | | 1.5470 | |
| | 2014年 1月末日 | 2,935 | | 1.4629 | |
| | 2月末日 | 2,939 | | 1.4433 | |
| | 3月末日 | 2,939 | | 1.4344 | |
| | 4月末日 | 2,880 | | 1.3987 | |
| | 5月末日 | 2,986 | | 1.4502 | |

【分配の推移】

| 期 | 期間 | 1口当たりの分配金(円) |
|------|-------------------------|--------------|
| 第7期 | 2003年10月28日～2004年10月25日 | 0.0000 |
| 第8期 | 2004年10月26日～2005年10月25日 | 0.0100 |
| 第9期 | 2005年10月26日～2006年10月25日 | 0.0100 |
| 第10期 | 2006年10月26日～2007年10月25日 | 0.0100 |
| 第11期 | 2007年10月26日～2008年10月27日 | 0.0000 |
| 第12期 | 2008年10月28日～2009年10月26日 | 0.0000 |
| 第13期 | 2009年10月27日～2010年10月25日 | 0.0000 |
| 第14期 | 2010年10月26日～2011年10月25日 | 0.0000 |
| 第15期 | 2011年10月26日～2012年10月25日 | 0.0000 |
| 第16期 | 2012年10月26日～2013年10月25日 | 0.0100 |
| 当中間期 | 2013年10月26日～2014年 4月25日 | |

【収益率の推移】

| 期 | 期間 | 収益率(%) |
|---|----|--------|
|---|----|--------|

| | | |
|------|-------------------------|-------|
| 第7期 | 2003年10月28日～2004年10月25日 | 11.89 |
| 第8期 | 2004年10月26日～2005年10月25日 | 40.42 |
| 第9期 | 2005年10月26日～2006年10月25日 | 22.39 |
| 第10期 | 2006年10月26日～2007年10月25日 | 4.79 |
| 第11期 | 2007年10月26日～2008年10月27日 | 51.12 |
| 第12期 | 2008年10月28日～2009年10月26日 | 29.61 |
| 第13期 | 2009年10月27日～2010年10月25日 | 9.75 |
| 第14期 | 2010年10月26日～2011年10月25日 | 7.12 |
| 第15期 | 2011年10月26日～2012年10月25日 | 4.04 |
| 第16期 | 2012年10月26日～2013年10月25日 | 71.14 |
| 当中間期 | 2013年10月26日～2014年 4月25日 | 0.52 |

(注)各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配落ち）に当該計算期間の分配金を加算し、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。

（４）【設定及び解約の実績】

| 期 | 期間 | 設定口数（口） | 解約口数（口） |
|------|-------------------------|---------------|---------------|
| 第7期 | 2003年10月28日～2004年10月25日 | 925,462,382 | 1,372,963,198 |
| 第8期 | 2004年10月26日～2005年10月25日 | 2,148,077,574 | 3,017,398,329 |
| 第9期 | 2005年10月26日～2006年10月25日 | 2,581,558,720 | 2,413,171,997 |
| 第10期 | 2006年10月26日～2007年10月25日 | 934,142,527 | 2,125,956,293 |
| 第11期 | 2007年10月26日～2008年10月27日 | 874,835,276 | 691,858,484 |
| 第12期 | 2008年10月28日～2009年10月26日 | 184,086,084 | 587,137,166 |
| 第13期 | 2009年10月27日～2010年10月25日 | 90,660,560 | 360,380,069 |
| 第14期 | 2010年10月26日～2011年10月25日 | 177,327,701 | 329,087,761 |
| 第15期 | 2011年10月26日～2012年10月25日 | 146,544,528 | 330,556,562 |
| 第16期 | 2012年10月26日～2013年10月25日 | 602,651,153 | 904,235,366 |
| 当中間期 | 2013年10月26日～2014年 4月25日 | 395,701,634 | 541,785,108 |

（参考）

アクティブバリュー マザーファンド

以下の運用状況は2014年 5月30日現在です。

・投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

投資状況

| 資産の種類 | 国・地域 | 時価合計（円） | 投資比率（％） |
|-----------------------|------|---------------|---------|
| 株式 | 日本 | 3,633,021,500 | 98.63 |
| コール・ローン等、その他資産（負債控除後） | | 50,483,964 | 1.37 |
| 合計（純資産総額） | | 3,683,505,464 | 100.00 |

その他の資産の投資状況

| 資産の種類 | 建別 | 国・地域 | 時価合計(円) | 投資比率(%) |
|----------|----|------|------------|---------|
| 株価指数先物取引 | 買建 | 日本 | 24,030,000 | 0.65 |

(注)先物取引は、主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しています。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

イ.評価額上位銘柄明細

| 国・地域 | 種類 | 銘柄名 | 業種 | 数量又は 額面総額 | 簿価 単価 (円) | 簿価 金額 (円) | 評価 単価 (円) | 評価 金額 (円) | 投資 比率 (%) |
|------|----|-------------------|----------|--------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 日本 | 株式 | トヨタ自動車 | 輸送用機器 | 34,700 | 6,188.37 | 214,736,478 | 5,761.00 | 199,906,700 | 5.43 |
| 日本 | 株式 | 三菱UFJフィナンシャル・グループ | 銀行業 | 169,700 | 615.30 | 104,417,873 | 573.00 | 97,238,100 | 2.64 |
| 日本 | 株式 | 本田技研工業 | 輸送用機器 | 24,200 | 3,832.82 | 92,754,376 | 3,563.00 | 86,224,600 | 2.34 |
| 日本 | 株式 | イハラケミカル工業 | 化学 | 96,900 | 731.33 | 70,865,877 | 825.00 | 79,942,500 | 2.17 |
| 日本 | 株式 | 東京デリカ | 小売業 | 44,900 | 1,467.95 | 65,910,958 | 1,728.00 | 77,587,200 | 2.11 |
| 日本 | 株式 | マツダ | 輸送用機器 | 167,000 | 444.86 | 74,292,504 | 440.00 | 73,480,000 | 1.99 |
| 日本 | 株式 | 三井住友フィナンシャルグループ | 銀行業 | 16,600 | 4,670.00 | 77,522,000 | 4,105.00 | 68,143,000 | 1.85 |
| 日本 | 株式 | 泉州電業 | 卸売業 | 46,800 | 1,214.30 | 56,829,240 | 1,420.00 | 66,456,000 | 1.80 |
| 日本 | 株式 | サン電子 | 電気機器 | 53,300 | 1,155.06 | 61,565,195 | 1,125.00 | 59,962,500 | 1.63 |
| 日本 | 株式 | 日本たばこ産業 | 食料品 | 17,100 | 3,314.76 | 56,682,396 | 3,444.00 | 58,892,400 | 1.60 |
| 日本 | 株式 | オリックス | その他金融業 | 35,300 | 1,637.87 | 57,816,910 | 1,614.00 | 56,974,200 | 1.55 |
| 日本 | 株式 | 日立製作所 | 電気機器 | 82,000 | 657.63 | 53,925,660 | 684.00 | 56,088,000 | 1.52 |
| 日本 | 株式 | KDDI | 情報・通信業 | 9,100 | 4,960.00 | 45,136,000 | 6,053.00 | 55,082,300 | 1.50 |
| 日本 | 株式 | 三井不動産 | 不動産業 | 17,000 | 3,232.00 | 54,944,017 | 3,221.00 | 54,757,000 | 1.49 |
| 日本 | 株式 | 鶴見製作所 | 機械 | 41,000 | 1,305.82 | 53,538,804 | 1,320.00 | 54,120,000 | 1.47 |
| 日本 | 株式 | テラプロープ | 電気機器 | 53,800 | 1,036.81 | 55,780,825 | 1,005.00 | 54,069,000 | 1.47 |
| 日本 | 株式 | ダイハツディーゼル | 輸送用機器 | 71,000 | 640.02 | 45,441,420 | 757.00 | 53,747,000 | 1.46 |
| 日本 | 株式 | みずほフィナンシャルグループ | 銀行業 | 271,100 | 204.20 | 55,358,620 | 198.00 | 53,677,800 | 1.46 |
| 日本 | 株式 | 太平電業 | 建設業 | 75,000 | 657.57 | 49,317,750 | 703.00 | 52,725,000 | 1.43 |
| 日本 | 株式 | 日本航空電子工業 | 電気機器 | 26,000 | 1,095.40 | 28,480,400 | 1,891.00 | 49,166,000 | 1.33 |
| 日本 | 株式 | イリソ電子工業 | 電気機器 | 8,300 | 4,124.87 | 34,236,480 | 5,580.00 | 46,314,000 | 1.26 |
| 日本 | 株式 | ジオスター | ガラス・土石製品 | 73,000 | 587.45 | 42,883,957 | 628.00 | 45,844,000 | 1.24 |
| 日本 | 株式 | 日本ペイント | 化学 | 28,000 | 1,566.86 | 43,872,080 | 1,623.00 | 45,444,000 | 1.23 |
| 日本 | 株式 | 住友電気工業 | 非鉄金属 | 33,100 | 1,430.51 | 47,350,143 | 1,368.00 | 45,280,800 | 1.23 |
| 日本 | 株式 | 大平洋金属 | 鉄鋼 | 93,000 | 365.13 | 33,957,090 | 481.00 | 44,733,000 | 1.21 |
| 日本 | 株式 | 日立機材 | 金属製品 | 38,400 | 968.32 | 37,183,788 | 1,130.00 | 43,392,000 | 1.18 |
| 日本 | 株式 | 東芝 | 電気機器 | 101,000 | 425.22 | 42,947,453 | 417.00 | 42,117,000 | 1.14 |
| 日本 | 株式 | 三菱電機 | 電気機器 | 35,000 | 1,025.00 | 35,875,000 | 1,181.00 | 41,335,000 | 1.12 |

| | | | | | | | | | |
|----|----|------|--------|--------|----------|------------|--------|------------|------|
| 日本 | 株式 | ダイセル | 化学 | 44,000 | 815.00 | 35,860,110 | 927.00 | 40,788,000 | 1.11 |
| 日本 | 株式 | 関西電力 | 電気・ガス業 | 42,600 | 1,159.95 | 49,413,953 | 939.00 | 40,001,400 | 1.09 |

ロ.種類別及び業種別の投資比率

| 種類 | 国内/国外 | 業種 | 投資比率(%) |
|--------|-------|------------|---------|
| 株式 | 国内 | 鉱業 | 0.65 |
| | | 建設業 | 4.74 |
| | | 食料品 | 1.60 |
| | | 繊維製品 | 1.13 |
| | | パルプ・紙 | 0.37 |
| | | 化学 | 6.60 |
| | | 医薬品 | 0.50 |
| | | 石油・石炭製品 | 0.54 |
| | | ゴム製品 | 1.59 |
| | | ガラス・土石製品 | 2.31 |
| | | 鉄鋼 | 3.99 |
| | | 非鉄金属 | 2.68 |
| | | 金属製品 | 2.32 |
| | | 機械 | 6.37 |
| | | 電気機器 | 13.01 |
| | | 輸送用機器 | 13.52 |
| | | 精密機器 | 0.99 |
| | | その他製品 | 0.50 |
| | | 電気・ガス業 | 3.68 |
| | | 陸運業 | 0.99 |
| | | 倉庫・運輸関連業 | 0.81 |
| | | 情報・通信業 | 3.44 |
| | | 卸売業 | 4.18 |
| | | 小売業 | 4.71 |
| | | 銀行業 | 6.65 |
| | | 証券、商品先物取引業 | 1.93 |
| 保険業 | 1.83 | | |
| その他金融業 | 2.40 | | |
| 不動産業 | 3.30 | | |
| サービス業 | 1.30 | | |
| 合 計 | | | 98.63 |

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

| 資産の種類 | 取引所 | 名称 | 建別 | 数量 | 通貨 | 契約額等（円） | 評価額（円） | 投資比率（%） |
|----------|-------|-------------------|----|----|-----|------------|------------|---------|
| 株価指数先物取引 | 大阪取引所 | 東証株価指数先物 2014年06月 | 買建 | 2 | 日本円 | 23,378,074 | 24,030,000 | 0.65 |

(注)先物取引は、主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しています。

参考情報

運用実績

2014年5月30日現在

基準価額・純資産の推移



基準価額…………… 14,502円
純資産総額…………… 29.86億円

※基準価額は、運用管理費用(信託報酬)控除後の1万口当たりの値です。

※分配金込基準価額は、2004年5月末の基準価額を起点として指数化しています。

※分配金込基準価額は、当ファンドに過去10年間、分配実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものであることにご留意ください。

分配の推移(税引前、1万口当たり)

| 2009年10月 | 2010年10月 | 2011年10月 | 2012年10月 | 2013年10月 | 設定来累計 |
|----------|----------|----------|----------|----------|--------|
| 0円 | 0円 | 0円 | 0円 | 100円 | 1,000円 |

主要な資産の状況

<資産構成比率>

| 組入資産 | 比率 |
|-------|-------|
| 株式 | 98.8% |
| うち先物 | 0.6% |
| CB | 0.0% |
| 公社債 | 0.0% |
| 現金その他 | 1.9% |

※当ファンドの実質組入比率です。

<国内株式組入上位5業種>

| 業種 | 比率 |
|---------|-------|
| 1 輸送用機器 | 13.7% |
| 2 電気機器 | 13.2% |
| 3 銀行業 | 6.7% |
| 4 化学 | 6.7% |
| 5 機械 | 6.5% |

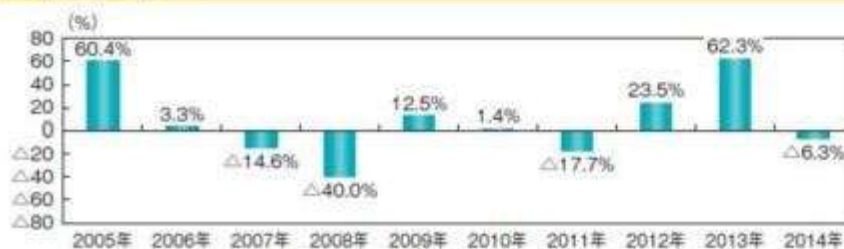
※マザーファンドの対組入株式時価総額比です。

<株式組入上位10銘柄> (銘柄数:124銘柄)

| 銘柄 | 業種 | 比率 |
|--------------------|-------|-------|
| 1 トヨタ自動車 | 輸送用機器 | 5.43% |
| 2 三菱UFJフィナンシャルグループ | 銀行業 | 2.64% |
| 3 本田技研工業 | 輸送用機器 | 2.34% |
| 4 イハラケミカル工業 | 化学 | 2.17% |
| 5 東京デリカ | 小売業 | 2.11% |
| 6 マツダ | 輸送用機器 | 1.99% |
| 7 三井住友フィナンシャルグループ | 銀行業 | 1.85% |
| 8 泉州電業 | 卸売業 | 1.80% |
| 9 サン電子 | 電気機器 | 1.63% |
| 10 日本たばこ産業 | 食料品 | 1.60% |

※マザーファンドの対純資産総額比です。

年間収益率の推移



※ ファンドの年間収益率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。

※ 2014年は、2014年5月末までの騰落率です。

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。

※ファンドの運用状況は別途、委託会社のホームページで開示しています。

第3【ファンドの経理状況】

- (1) 当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）並びに同規則第38条の3及び第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。
なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- (2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当中間計算期間（平成25年10月26日から平成26年4月25日まで）の中間財務諸表について、あらた監査法人による中間監査を受けております。

【中間財務諸表】

【日興アクティブバリュー】

(1) 【中間貸借対照表】

(単位：円)

| 当中間計算期間末 平成26年4月25日現在 | |
|--------------------------|---------------|
| 資産の部 | |
| 流動資産 | |
| コール・ローン | 39,205,048 |
| 親投資信託受益証券 | 2,884,244,015 |
| 未収入金 | 2,453,898 |
| 未収利息 | 64 |
| 流動資産合計 | 2,925,903,025 |
| 資産合計 | 2,925,903,025 |
| 負債の部 | |
| 流動負債 | |
| 未払解約金 | 3,199,179 |
| 未払受託者報酬 | 1,572,277 |
| 未払委託者報酬 | 22,327,157 |
| その他未払費用 | 76,682 |
| 流動負債合計 | 27,175,295 |
| 負債合計 | 27,175,295 |
| 純資産の部 | |
| 元本等 | |
| 元本 | 2,058,694,312 |
| 剰余金 | |
| 中間剰余金又は中間欠損金（ ） | 840,033,418 |
| （分配準備積立金） | 249,057,204 |
| 元本等合計 | 2,898,727,730 |
| 純資産合計 | 2,898,727,730 |
| 負債純資産合計 | 2,925,903,025 |

(2) 【中間損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

| 当中間計算期間 自 平成25年10月26日 至 平成26年4月25日 | |
|--|------------|
| 営業収益 | |
| 受取利息 | 10,092 |
| 有価証券売買等損益 | 55,494,944 |
| 営業収益合計 | 55,505,036 |
| 営業費用 | |

| | 当中間計算期間 自 平成25年10月26日 至 平成26年 4月25日 |
|---|---|
| 受託者報酬 | 1,572,277 |
| 委託者報酬 | 22,327,157 |
| その他費用 | 76,682 |
| 営業費用合計 | 23,976,116 |
| 営業利益又は営業損失（ ） | 31,528,920 |
| 経常利益又は経常損失（ ） | 31,528,920 |
| 中間純利益又は中間純損失（ ） | 31,528,920 |
| 一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ） | 39,169,920 |
| 期首剰余金又は期首欠損金（ ） | 883,481,433 |
| 剰余金増加額又は欠損金減少額 | 183,220,780 |
| 中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額 | - |
| 中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額 | 183,220,780 |
| 剰余金減少額又は欠損金増加額 | 219,027,795 |
| 中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額 | 219,027,795 |
| 中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額 | - |
| 分配金 | - |
| 中間剰余金又は中間欠損金（ ） | 840,033,418 |

(3) 【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

| | |
|-----------------|--|
| 有価証券の評価基準及び評価方法 | 親投資信託受益証券 移動平均法に基づき当該親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。 |
|-----------------|--|

(中間貸借対照表に関する注記)

| | | 当中間計算期間末 平成26年 4月25日現在 |
|----|-----------|---------------------------|
| 1. | 期首元本額 | 2,204,777,786円 |
| | 期中追加設定元本額 | 395,701,634円 |
| | 期中一部解約元本額 | 541,785,108円 |
| 2. | 受益権の総数 | 2,058,694,312口 |

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

| | 当中間計算期間 自 平成25年10月26日 至 平成26年 4月25日 |
|-------------|---|
| 該当事項はありません。 | |

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

| | 当中間計算期間末 平成26年 4月25日現在 |
|-----------------------------|---|
| 中間貸借対照表計上額、時価及びその差額 | 中間貸借対照表計上額は中間計算期間末日の時価で計上しているため、その差額は ありません。 |
| 時価の算定方法 | (1)有価証券 売買目的有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載 しております。 (2)デリバティブ取引 該当事項はありません。 (3)上記以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品 の時価を帳簿価額としております。 |
| 金融商品の時価等に関する事項につ いての補足説明 | 金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理 的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条 件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なること もあります。 |

(1口当たり情報)

| | 当中間計算期間末 平成26年 4月25日現在 |
|--------------|---------------------------|
| 1口当たり純資産額 | 1.4080円 |
| (1万口当たり純資産額) | (14,080円) |

当ファンドは、「アクティブバリュース マザーファンド」を主要投資対象としており、中間貸借対照表の資
産の部に計上された「親投資信託受益証券」は同親投資信託です。なお、同親投資信託の状況は次の通りで
す。ただし、当該情報は監査の対象外であります。

(参考)

アクティブバリュース マザーファンド

貸借対照表

(単位 : 円)

平成26年 4月25日現在

| 資産の部 | |
|---------|---------------|
| 流動資産 | |
| コール・ローン | 20,287,144 |
| 株式 | 3,508,797,400 |

平成26年 4月25日現在

| | |
|-------------|---------------|
| 未収入金 | 26,451,633 |
| 未収配当金 | 33,938,050 |
| 未収利息 | 33 |
| 前払金 | 365,000 |
| 差入委託証拠金 | 420,000 |
| 流動資産合計 | 3,590,259,260 |
| 資産合計 | 3,590,259,260 |
| 負債の部 | |
| 流動負債 | |
| 派生商品評価勘定 | 279,033 |
| 未払金 | 14,148,553 |
| 未払解約金 | 2,453,898 |
| 流動負債合計 | 16,881,484 |
| 負債合計 | 16,881,484 |
| 純資産の部 | |
| 元本等 | |
| 元本 | 1,705,216,118 |
| 剰余金 | |
| 剰余金又は欠損金（ ） | 1,868,161,658 |
| 元本等合計 | 3,573,377,776 |
| 純資産合計 | 3,573,377,776 |
| 負債純資産合計 | 3,590,259,260 |

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

| | |
|-----------------------|---|
| 1. 有価証券の評価基準及び評価方法 | <p>株式は移動平均法に基づき、以下のとおり原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等における計算期間末日の最終相場（外貨建証券の場合は計算期間末日において知りうる直近の日の最終相場）で評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 当該有価証券については、原則として、日本証券業協会等発表の店頭売買参考統計値（平均値）等、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）又は価格提供会社の提供する価額のいずれかから入手した価額で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額もしくは受託者と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p> |
| 2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法 | <p>デリバティブ取引 個別法に基づき原則として時価で評価しております。</p> |

(貸借対照表に関する注記)

| | | 平成26年 4月25日現在 |
|----|-------|----------------|
| 1. | 期首 | 平成25年10月26日 |
| | 期首元本額 | 1,814,173,078円 |

| | |
|------------------------------|----------------|
| 期首からの追加設定元本額 | 152,017,474円 |
| 期首からの一部解約元本額 | 260,974,434円 |
| 元本の内訳 | |
| 日興アクティブバリュー | 1,376,333,277円 |
| 日本株バリュー&グロース・ファンド（適格機関投資家向け） | 328,882,841円 |
| 計 | 1,705,216,118円 |
| 2. 受益権の総数 | 1,705,216,118口 |

当該親投資信託受益証券を投資対象とする投資信託ごとの元本額

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

| | 平成26年 4月25日現在 |
|-------------------------|---|
| 貸借対照表計上額、時価及びその差額 | 貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありません。 |
| 時価の算定方法 | (1)有価証券 売買目的有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 (2)デリバティブ取引 「デリバティブ取引等に関する注記」に記載しております。 (3)上記以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の時価を帳簿価額としております。 |
| 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明 | 金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。 |

（デリバティブ取引等に関する注記）

取引の時価等に関する事項

（株式関連）

（平成26年 4月25日現在）

（単位：円）

| 区分 | 種類 | 契約額等 | | 時価 | 評価損益 |
|------|----------|------------|-------|------------|---------|
| | | | うち1年超 | | |
| 市場取引 | 株価指数先物取引 | | | | |
| | 買建 | 12,005,000 | - | 11,730,000 | 275,000 |
| 合計 | | 12,005,000 | - | 11,730,000 | 275,000 |

（注）1.時価の算定方法

株価指数先物取引の時価については、以下のように評価しております。

原則として本書における開示対象ファンドの中間計算期間末日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しております。このような時価が発表されていない場合には、同中間計算期間末日に最も近い最終相場や気配値等、原則に準ずる方法で評価しております。

2. 株価指数先物取引の残高は、契約額ベースで表示しております。
3. 契約額等には手数料相当額を含んでおりません。
4. 契約額等及び時価の合計欄の金額は、各々の合計金額であります。

（1口当たり情報）

| 平成26年 4月25日現在 | |
|---------------|-----------|
| 1口当たり純資産額 | 2.0956円 |
| (1万口当たり純資産額) | (20,956円) |

2【ファンドの現況】

以下のファンドの現況は2014年 5月30日現在です。

【日興アクティブバリュー】

【純資産額計算書】

| | |
|----------------|----------------|
| 資産総額 | 3,004,350,600円 |
| 負債総額 | 17,359,657円 |
| 純資産総額（ - ） | 2,986,990,943円 |
| 発行済口数 | 2,059,745,113口 |
| 1口当たり純資産額（ / ） | 1.4502円 |

（参考）

アクティブバリュー マザーファンド

純資産額計算書

| | |
|----------------|----------------|
| 資産総額 | 3,714,426,142円 |
| 負債総額 | 30,920,678円 |
| 純資産総額（ - ） | 3,683,505,464円 |
| 発行済口数 | 1,703,664,353口 |
| 1口当たり純資産額（ / ） | 2.1621円 |

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

<更新後>

(1) 資本金の額

| | | |
|------------|----------|-----------------|
| 平成26年5月末現在 | 資本金 | 17,363,045,900円 |
| | 発行可能株式総数 | 230,000,000株 |
| | 発行済株式総数 | 197,012,500株 |

過去5年間における主な資本金の増減

| 年月日 | 変更後（変更前） |
|------------|----------------------------------|
| 平成21年10月1日 | 17,363,045,900円（16,403,045,900円） |

(2) 会社の意思決定機関（平成26年5月末現在）

・株主総会

株主総会は、取締役・監査役の選任および定款変更に係る決議などの株式会社の基本的な方針や重要な事項の決定を行ないます。

当社は、毎年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された議決権を有する株主をもって、その事業年度に関する定時株主総会において、その権利を行使することができる株主とみなし、毎年3月31日（事業年度の終了）から3ヶ月以内にこれを招集し、臨時株主総会は必要に応じてこれを招集します。

・取締役会

取締役会は、業務執行の決定を行い、取締役の職務の執行の監督をします。

当社の取締役会は10名以内の取締役で構成され、取締役の任期は選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとします。取締役会はその決議をもって、代表取締役若干名を選定します。

・監査役会

当社の監査役会は5名以内の監査役で構成され、監査役の任期は選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までを任期とします。監査役会は、その決議をもって常勤の監査役を選定します。

(3) 運用の意思決定プロセス（平成26年5月末現在）

1. 投資委員会にて、国内外の経済見通し、市況見通しおよび資産配分の基本方針を決定します。
2. 各運用部門は、投資委員会の決定に基づき、個別資産および資産配分戦略に係る具体的な運用方針を策定します。
3. 各運用部門のファンドマネージャーは、上記方針を受け、個別ファンドのガイドラインおよびそれぞれの運用方針に沿って、ポートフォリオを構築・管理します。
4. トレーディング部門は、社会的信用力、情報提供力、執行対応力において最適と判断し得る発注業者、発注方針などを決定します。その上で、トレーダーは、最良執行のプロセスに則り売買を執行します。
5. 運用に関するリスク・パフォーマンスの評価と分析および法令など遵守状況のモニタリングとリスクの管理については、運用部門から独立したリスク管理/コンプライアンス業務担当部門が担当し、これを運用部門にフィードバックすることにより、適切な運用体制を維持できるように努めています。

2【事業の内容及び営業の概況】

<更新後>

- ・「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行なうとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行

なっています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務を行なっています。

- ・委託会社の運用する、平成26年5月末現在の投資信託などは次の通りです。

| 種 類 | ファンド本数 | 純資産額 (単位：億円) |
|---------|--------|-----------------|
| 投資信託総合計 | 500 | 92,731 |
| 株式投資信託 | 442 | 72,355 |
| 単位型 | 59 | 1,556 |
| 追加型 | 383 | 70,799 |
| 公社債投資信託 | 58 | 20,376 |
| 単位型 | 42 | 338 |
| 追加型 | 16 | 20,038 |
| 投資法人合計 | 1 | 41 |

3【委託会社等の経理状況】

<更新後>

1. 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

なお、当事業年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成24年9月21日内閣府令第61号）附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2. 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第55期事業年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

(1)【貸借対照表】

<更新後>

| | (単位：百万円) | | | |
|-----------|----------------------|--------|----------------------|--------|
| | 第54期 (平成25年3月31日) | | 第55期 (平成26年3月31日) | |
| 資産の部 | | | | |
| 流動資産 | | | | |
| 現金・預金 | 3 | 15,820 | 3 | 17,805 |
| 有価証券 | | - | | 234 |
| 前払費用 | 3 | 380 | 3 | 419 |
| 未収入金 | | 4 | | 37 |
| 未収委託者報酬 | | 7,472 | | 7,162 |
| 未収収益 | 3 | 342 | 3 | 608 |
| 関係会社短期貸付金 | | 606 | | 240 |
| 立替金 | | 335 | | 303 |
| 繰延税金資産 | | 869 | | 984 |
| その他 | 2 | 30 | 2 | 30 |

| | | | | |
|------------|---|--------|---|--------|
| 流動資産合計 | | 25,862 | | 27,826 |
| 固定資産 | | | | |
| 有形固定資産 | | | | |
| 建物 | 1 | 48 | 1 | 47 |
| 器具備品 | 1 | 124 | 1 | 134 |
| 有形固定資産合計 | | 172 | | 181 |
| 無形固定資産 | | | | |
| ソフトウェア | | 70 | | 91 |
| 無形固定資産合計 | | 70 | | 91 |
| 投資その他の資産 | | | | |
| 投資有価証券 | | 7,170 | | 7,290 |
| 関係会社株式 | | 22,935 | | 21,702 |
| 関係会社長期貸付金 | | 60 | | 60 |
| 長期差入保証金 | | 706 | | 692 |
| 繰延税金資産 | | 500 | | 525 |
| 投資その他の資産合計 | | 31,373 | | 30,271 |
| 固定資産合計 | | 31,616 | | 30,544 |
| 資産合計 | | 57,478 | | 58,371 |

(単位：百万円)

| | | 第54期 (平成25年3月31日) | | 第55期 (平成26年3月31日) |
|---------|---|----------------------|---|----------------------|
| 負債の部 | | | | |
| 流動負債 | | | | |
| 預り金 | | 305 | | 329 |
| 未払金 | | 3,862 | | 3,404 |
| 未払収益分配金 | | 6 | | 6 |
| 未払償還金 | | 115 | | 112 |
| 未払手数料 | 3 | 3,195 | 3 | 2,743 |
| その他未払金 | | 545 | | 542 |
| 未払費用 | 3 | 3,282 | 3 | 3,239 |
| 未払法人税等 | | 589 | | 2,286 |
| 未払消費税等 | 4 | 123 | 4 | 356 |
| 賞与引当金 | | 1,770 | | 1,935 |
| 役員賞与引当金 | | 80 | | 150 |
| 流動負債合計 | | 10,012 | | 11,702 |
| 固定負債 | | | | |
| 退職給付引当金 | | 1,001 | | 1,081 |
| その他 | | 55 | | 55 |
| 固定負債合計 | | 1,057 | | 1,137 |
| 負債合計 | | 11,070 | | 12,840 |
| 純資産の部 | | | | |
| 株主資本 | | | | |
| 資本金 | | 17,363 | | 17,363 |
| 資本剰余金 | | | | |
| 資本準備金 | | 5,220 | | 5,220 |

| | | |
|--------------|--------|--------|
| 資本剰余金合計 | 5,220 | 5,220 |
| 利益剰余金 | | |
| その他利益剰余金 | | |
| 繰越利益剰余金 | 23,530 | 22,694 |
| 利益剰余金合計 | 23,530 | 22,694 |
| 自己株式 | 68 | 68 |
| 株主資本合計 | 46,045 | 45,209 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 362 | 321 |
| 評価・換算差額等合計 | 362 | 321 |
| 純資産合計 | 46,408 | 45,531 |
| 負債純資産合計 | 57,478 | 58,371 |

(2) 【損益計算書】

< 更新後 >

| | (単位：百万円) | |
|------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| | 第54期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 第55期 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
| 営業収益 | | |
| 委託者報酬 | 52,848 | 63,120 |
| その他営業収益 | 1,922 | 2,557 |
| 営業収益合計 | 54,771 | 65,678 |
| 営業費用 | | |
| 支払手数料 | 26,955 | 31,207 |
| 広告宣伝費 | 649 | 1,081 |
| 公告費 | 7 | 2 |
| 調査費 | 10,797 | 13,405 |
| 調査費 | 691 | 712 |
| 委託調査費 | 10,089 | 12,669 |
| 図書費 | 17 | 23 |
| 委託計算費 | 406 | 465 |
| 営業雑経費 | 530 | 558 |
| 通信費 | 188 | 186 |
| 印刷費 | 214 | 252 |
| 協会費 | 46 | 43 |
| 諸会費 | 16 | 11 |
| その他 | 64 | 65 |
| 営業費用計 | 39,347 | 46,721 |
| 一般管理費 | | |
| 給料 | 6,759 | 7,171 |
| 役員報酬 | 256 | 316 |
| 役員賞与引当金繰入額 | 80 | 150 |
| 給料・手当 | 4,565 | 4,719 |
| 賞与 | 87 | 50 |
| 賞与引当金繰入額 | 1,770 | 1,935 |
| 交際費 | 100 | 108 |
| 寄付金 | 66 | 54 |

| | | |
|-----------|--------|--------|
| 旅費交通費 | 313 | 448 |
| 租税公課 | 188 | 209 |
| 不動産賃借料 | 753 | 755 |
| 退職給付費用 | 312 | 313 |
| 退職金 | 83 | 32 |
| 固定資産減価償却費 | 124 | 109 |
| 諸経費 | 3,061 | 3,364 |
| 一般管理費計 | 11,764 | 12,568 |
| 営業利益 | 3,659 | 6,388 |

(単位：百万円)

| | 第54期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | | 第55期 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) | |
|----------------|---------------------------------------|-------|---------------------------------------|-------|
| 営業外収益 | | | | |
| 受取利息 | | 12 | | 17 |
| 受取配当金 | 1 | 601 | 1 | 1,774 |
| 時効成立分配金・償還金 | | 4 | | 4 |
| 為替差益 | | 64 | | 26 |
| その他 | | 16 | | 19 |
| 営業外収益合計 | | 699 | | 1,842 |
| 営業外費用 | | | | |
| 支払利息 | | 19 | | 19 |
| 有価証券償還損 | | 1 | | - |
| 時効成立後支払分配金・償還金 | | 15 | | 22 |
| 支払源泉所得税 | | 55 | | 57 |
| その他 | | 2 | | 13 |
| 営業外費用合計 | | 93 | | 114 |
| 経常利益 | | 4,265 | | 8,116 |
| 特別利益 | | | | |
| 投資有価証券売却益 | | 226 | | 135 |
| 関係会社株式売却益 | | 239 | | - |
| 特別利益合計 | | 465 | | 135 |
| 特別損失 | | | | |
| 投資有価証券売却損 | | 84 | | 12 |
| 関係会社株式評価損 | | - | | 4,500 |
| 固定資産処分損 | | 3 | | 0 |
| 割増退職金 | | - | | 59 |
| 役員退職一時金 | | 75 | | 235 |
| 特別損失合計 | | 163 | | 4,807 |
| 税引前当期純利益 | | 4,568 | | 3,445 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 1,480 | | 3,020 |
| 法人税等調整額 | | 260 | | 119 |
| 法人税等合計 | | 1,740 | | 2,900 |
| 当期純利益 | | 2,827 | | 544 |

(3) 【株主資本等変動計算書】

< 更新後 >

第54期（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：百万円）

| | 株主資本 | | | | | | |
|---------------------|--------|-------|---------|---------------------|---------|------|--------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益剰余金 | | 自己株式 | 株主資本合計 |
| | | 資本準備金 | 資本剰余金合計 | その他利益剰余金 繰越利益剰余金 | 利益剰余金合計 | | |
| 当期首残高 | 17,363 | 5,220 | 5,220 | 22,172 | 22,172 | 68 | 44,687 |
| 当期変動額 | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | 1,468 | 1,468 | | 1,468 |
| 当期純利益 | | | | 2,827 | 2,827 | | 2,827 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | | | | | | | |
| 当期変動額合計 | - | - | - | 1,358 | 1,358 | - | 1,358 |
| 当期末残高 | 17,363 | 5,220 | 5,220 | 23,530 | 23,530 | 68 | 46,045 |

| | 評価・換算差額等 | | 純資産合計 |
|---------------------|------------------|----------------|--------|
| | その他 有価証券評価差額金 | 評価・換算 差額等合計 | |
| 当期首残高 | 42 | 42 | 44,729 |
| 当期変動額 | | | |
| 剰余金の配当 | | | 1,468 |
| 当期純利益 | | | 2,827 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 320 | 320 | 320 |
| 当期変動額合計 | 320 | 320 | 1,678 |
| 当期末残高 | 362 | 362 | 46,408 |

第55期（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

（単位：百万円）

| | 株主資本 | | | | | | |
|---------------------|--------|-------|---------|---------------------|---------|------|--------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益剰余金 | | 自己株式 | 株主資本合計 |
| | | 資本準備金 | 資本剰余金合計 | その他利益剰余金 繰越利益剰余金 | 利益剰余金合計 | | |
| 当期首残高 | 17,363 | 5,220 | 5,220 | 23,530 | 23,530 | 68 | 46,045 |
| 当期変動額 | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | 1,380 | 1,380 | | 1,380 |
| 当期純利益 | | | | 544 | 544 | | 544 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | | | | | | | |
| 当期変動額合計 | - | - | - | 836 | 836 | - | 836 |
| 当期末残高 | 17,363 | 5,220 | 5,220 | 22,694 | 22,694 | 68 | 45,209 |

| | 評価・換算差額等 | | 純資産合計 |
|--|----------|-------|-------|
| | その他 | 評価・換算 | |
| | | | |

| | 有価証券評 価差額金 | 差額等合計 | |
|-------------------------|---------------|-------|--------|
| 当期首残高 | 362 | 362 | 46,408 |
| 当期変動額 | | | |
| 剰余金の配当 | | | 1,380 |
| 当期純利益 | | | 544 |
| 株主資本以外の項目の当 期変動額（純額） | 40 | 40 | 40 |
| 当期変動額合計 | 40 | 40 | 876 |
| 当期末残高 | 321 | 321 | 45,531 |

注記事項

(重要な会計方針)

| 項目 | 第55期 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|---------------------------|---|
| 1 資産の評価基準及び評価方法 | (1) 有価証券 子会社株式及び関連会社株式 総平均法による原価法 その他有価証券 時価のあるもの 決算末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、総平均法により算定) 時価のないもの 総平均法による原価法 |
| 2 固定資産の減価償却の方法 | (1) 有形固定資産 定率法により償却しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 3年～5年 器具備品 4年～20年 (2) 無形固定資産 定額法により償却しております。ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。 |
| 3 引当金の計上基準 | (1) 賞与引当金 従業員に支給する賞与の支払に充てるため、支払見込額に基づき、当事業年度の負担額を計上しております。 (2) 役員賞与引当金 役員に支給する賞与の支払に充てるため、支払見込額に基づき、当事業年度の負担額を計上しております。 (3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、計上しております。 退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。 数理計算上の差異の費用処理方法 数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。 |
| 4 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項 | 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっており、控除対象外消費税等は、当事業年度の費用として処理しております。 |

（表示方法の変更）

| 第55期 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日) |
|--|
| <p>「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年 5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年 5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を当事業年度より適用し（ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く。）、（退職給付関係）注記の表示方法を変更しております。</p> <p>退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、（退職給付関係）の注記の組替えは行っておりません。</p> |

（貸借対照表関係）

| 第54期 (平成25年 3月31日) | 第55期 (平成26年 3月31日) | | | | | | | | |
|--|-----------------------|----------|------|--------|---|----|----------|------|--------|
| <p>1 有形固定資産の減価償却累計額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物</td> <td style="text-align: right;">1,054百万円</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td style="text-align: right;">618百万円</td> </tr> </table> <p>2 信託資産 その他流動資産の30百万円は、「直販顧客分別金信託契約」により、野村信託銀行株式会社に信託しております。</p> <p>3 関係会社に対する資産及び負債は次のとおりであります。 (流動資産) 現金・預金 3,818百万円 前払費用 2百万円 未収収益 58百万円 (流動負債) 未払手数料 143百万円 未払費用 297百万円</p> <p>4 消費税等の取扱い 仮払消費税等及び仮受消費税等は相殺のうえ、「未払消費税等」として表示しております。</p> <p>5 保証債務 当社は、Nikko Asset Management Europe Ltd がロンドン ウォール リミテッド パートナーシップに支払うオフィス賃借料等の債務87百万円に対して保証を行っております。また当社は、Nikko Asset Management Americas, Inc. がマディソン タワーアソシエイツ リミテッド パートナーシップに支払うオフィス賃借料等の債務243百万円に対して保証を行っております。</p> | 建物 | 1,054百万円 | 器具備品 | 618百万円 | <p>1 有形固定資産の減価償却累計額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物</td> <td style="text-align: right;">1,091百万円</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td style="text-align: right;">625百万円</td> </tr> </table> <p>2 信託資産 その他流動資産の30百万円は、「直販顧客分別金信託契約」により、野村信託銀行株式会社に信託しております。</p> <p>3 関係会社に対する資産及び負債は次のとおりであります。 (流動資産) 現金・預金 6,249百万円 前払費用 2百万円 未収収益 74百万円 (流動負債) 未払手数料 98百万円 未払費用 274百万円</p> <p>4 消費税等の取扱い 仮払消費税等及び仮受消費税等は相殺のうえ、「未払消費税等」として表示しております。</p> <p>5 保証債務 当社は、Nikko Asset Management Europe Ltd がロンドン ウォール リミテッド パートナーシップに支払うオフィス賃借料等の債務65百万円に対して保証を行っております。また当社は、Nikko Asset Management Americas, Inc. がマディソン タワーアソシエイツ リミテッド パートナーシップに支払うオフィス賃借料等の債務159百万円に対して保証を行っております。</p> | 建物 | 1,091百万円 | 器具備品 | 625百万円 |
| 建物 | 1,054百万円 | | | | | | | | |
| 器具備品 | 618百万円 | | | | | | | | |
| 建物 | 1,091百万円 | | | | | | | | |
| 器具備品 | 625百万円 | | | | | | | | |

（損益計算書関係）

| 第54期 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日) | 第55期 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日) | | | | |
|--|--|--------|--|-------|----------|
| <p>1 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">受取配当金</td> <td style="text-align: right;">552百万円</td> </tr> </table> | 受取配当金 | 552百万円 | <p>1 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">受取配当金</td> <td style="text-align: right;">1,290百万円</td> </tr> </table> | 受取配当金 | 1,290百万円 |
| 受取配当金 | 552百万円 | | | | |
| 受取配当金 | 1,290百万円 | | | | |

（株主資本等変動計算書関係）

第54期（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首 | 当事業年度増加 | 当事業年度減少 | 当事業年度末 |
|---------|-------------|---------|---------|-------------|
| 普通株式（株） | 197,012,500 | - | - | 197,012,500 |

2 自己株式の種類及び株式数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首 | 当事業年度増加 | 当事業年度減少 | 当事業年度末 |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 普通株式（株） | 109,600 | - | - | 109,600 |

3 新株予約権等に関する事項

| 新株予約権の内訳 | 新株予約権の 目的となる 株式の種類 | 新株予約権の目的となる株式の数(株) | | | | 当事業年 度末残高 (百万円) |
|------------------------|--------------------------|--------------------|-------------|-------------|------------|-----------------------|
| | | 当事業年度 期首 | 当事業年度 増加 | 当事業年度 減少 | 当事業 年度末 | |
| 平成21年度 ストックオプション(1) | 普通株式 | 19,215,900 | - | 2,237,400 | 16,978,500 | - |
| 平成21年度 ストックオプション(2) | 普通株式 | 1,676,400 | - | 49,500 | 1,626,900 | - |
| 平成22年度 ストックオプション(1) | 普通株式 | 2,310,000 | - | - | 2,310,000 | - |
| 第1回新株予約権 | 普通株式 | 2,955,200 | - | - | 2,955,200 | - |
| 平成23年度 ストックオプション(1) | 普通株式 | 6,091,800 | - | 161,700 | 5,930,100 | - |
| 合計 | | 32,249,300 | - | 2,448,600 | 29,800,700 | - |

(注) 1 平成21年度ストックオプション(1)、平成21年度ストックオプション(2)及び平成23年度ストックオプション(1)の減少は、新株予約権の失効によるものであります。

2 第1回新株予約権の新株予約権の目的となる株式の数は、新株予約権の行使に関する通知が当社に提出された日における、当社の発行済株式数×0.25%に6を乗じた数で算出され、当事業年度末の発行済株式に基づき算出しております。

3 平成21年度ストックオプション(1)13,625,700株、平成21年度ストックオプション(2)1,287,000株、平成22年度ストックオプション(1)1,732,500株及び第1回新株予約権2,955,200株は、当事業年度末現在、権利行使期間の初日が到来しておりますが、他の条件が満たされていないため新株予約権を行使することができません。また、平成23年度ストックオプション(1)は、権利行使期間の初日が到来しておりません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の 総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|--------------------|-------|---------------------|-----------------|------------|------------|
| 平成24年5月28日 取締役会 | 普通株式 | 1,468 | 7.46 | 平成24年3月31日 | 平成24年6月19日 |

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

| 決議 | 株式の種類 | 配当の 原資 | 配当金の 総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|--------------------|-------|-----------|---------------------|-----------------|------------|------------|
| 平成25年5月27日 取締役会 | 普通株式 | 利益剰 余金 | 1,380 | 7.01 | 平成25年3月31日 | 平成25年6月18日 |

第55期（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首 | 当事業年度増加 | 当事業年度減少 | 当事業年度末 |
|---------|-------------|---------|---------|-------------|
| 普通株式（株） | 197,012,500 | - | - | 197,012,500 |

2 自己株式の種類及び株式数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首 | 当事業年度増加 | 当事業年度減少 | 当事業年度末 |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 普通株式（株） | 109,600 | - | - | 109,600 |

3 新株予約権等に関する事項

| 新株予約権の内訳 | 新株予約権の目的となる株式の種類 | 新株予約権の目的となる株式の数(株) | | | | 当事業年度末残高(百万円) |
|--------------------|------------------|--------------------|---------|-----------|------------|---------------|
| | | 当事業年度期首 | 当事業年度増加 | 当事業年度減少 | 当事業年度末 | |
| 平成21年度ストックオプション(1) | 普通株式 | 16,978,500 | - | 1,075,800 | 15,902,700 | - |
| 平成21年度ストックオプション(2) | 普通株式 | 1,626,900 | - | 59,400 | 1,567,500 | - |
| 平成22年度ストックオプション(1) | 普通株式 | 2,310,000 | - | - | 2,310,000 | - |
| 第1回新株予約権 | 普通株式 | 2,955,200 | - | - | 2,955,200 | - |
| 平成23年度ストックオプション(1) | 普通株式 | 5,930,100 | - | 541,200 | 5,388,900 | - |
| 合計 | | 29,800,700 | - | 1,676,400 | 28,124,300 | - |

- (注) 1 平成21年度ストックオプション(1)、平成21年度ストックオプション(2)及び平成23年度ストックオプション(1)の減少は、新株予約権の失効によるものであります。
- 2 第1回新株予約権の新株予約権の目的となる株式の数は、新株予約権の行使に関する通知が当社に提出された日における、当社の発行済株式数×0.25%に6を乗じた数で算出され、当事業年度末の発行済株式に基づき算出しております。
- 3 平成21年度ストックオプション(1)15,902,700株、平成21年度ストックオプション(2)1,567,500株、平成22年度ストックオプション(1)2,310,000株、第1回新株予約権2,955,200株及び平成23年度ストックオプション(1)2,887,500株は、当事業年度末現在、権利行使期間の初日が到来しておりますが、他の条件が満たされていないため新株予約権を行使することができません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額(百万円) | 1株当たり配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------|-------|-------------|-------------|------------|------------|
| 平成25年5月27日取締役会 | 普通株式 | 1,380 | 7.01 | 平成25年3月31日 | 平成25年6月18日 |

- (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの
該当事項はありません。

(リース取引関係)

| 第54期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 第55期 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| オペレーティング・リース取引 | オペレーティング・リース取引 |

| 解約不能のものに係る未経過リース料 | | 解約不能のものに係る未経過リース料 | |
|-------------------|----------|-------------------|--------|
| 1年内 | 750百万円 | 1年内 | 751百万円 |
| 1年超 | 807百万円 | 1年超 | 77百万円 |
| 合計 | 1,558百万円 | 合計 | 828百万円 |

（金融商品関係）

第54期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

預金に関しては10数行に分散して預入れしておりますが、これら金融機関の破綻及び債務不履行等による信用リスクに晒されており、また一部外貨建て預金を保有しているため為替変動リスクにも晒されております。営業債権である未収委託者報酬、未収収益に関しては、それらの源泉である預り純資産を数行の信託銀行に分散して委託しておりますが、信託銀行はその受託資産を自己勘定と分別して管理しているため、仮に信託銀行が破綻または債務不履行等となった場合でも、これら営業債権が信用リスクに晒されることは無いと考えております。また、グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されます。投資有価証券は、主に自己で設定した投資信託へのシードマネーの投入によるものであります。これら投資信託の投資対象は株式、公社債等のため、価格変動リスクや信用リスク、流動性リスク、為替変動リスクに晒されております。

営業債務である未払金（未払手数料）、未払費用に関しては、すべてが1年以内の支払期日であります。未払金（未払手数料）については、債権（未収委託者報酬）を資金回収した後に、販売会社へ当該債務を支払うフローとなっているため、流動性リスクに晒されることは無いと考えております。また未払費用のうち運用再委託先への顧問料支払に係るものについてもほとんどのものが、未払金同様のフローのため、流動性リスクに晒されることは無いと考えております。それ以外の営業費用及び一般管理費に係る未払費用に関しては、流動性リスクに晒されており、一部は外貨建て債務があるため、為替の変動リスクにも晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、預金を預入れる金融機関の選定に関しては、短期間の取引が想定される金融機関の場合を除き、相手方の財政状態及び経営成績、または必要に応じて格付等を考慮した上で決定しております。また既に取引が行われている相手方に関しても、定期的に継続したモニタリングを行うことで、相手方の財務状況の悪化等による信用リスクを早期に把握することで、リスクの軽減を図っております。

市場リスク（為替や価格等の変動リスク）の管理

当社は、原則、為替変動や価格変動に係るリスクに対して、ヘッジ取引を行っておりません。外貨建ての営業債権債務について、月次ベースで為替変動リスクを測定し、モニタリングを実施しております。また投資有価証券に関しては、毎月末にそれぞれの時価を算出し、評価損益を把握しております。また、市場の変動等に基づき、今後の一定期間において特定の確率で、金融商品に生じ得る損失額の推計値を把握するため、バリュエーション・アット・リスクを用いた市場リスク管理を週次ベースで実施しております。これらの結果、当社の財政状態、経営成績に与える影響が著しいと判断される場合には、必要に応じて、ヘッジ取引規程に則り、それを回避する目的で、ヘッジ取引を行うことが可能であります。

流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、日々資金残高管理を行っております。また、適時に資金繰予定表を作成・更新するとともに、手許流動性（最低限必要な運転資金）を状況に応じて見直し・維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

2 金融商品の時価等に関する事項

平成25年3月31日（当事業年度の決算日）における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

(単位：百万円)

| | 貸借対照表 計上額() | 時価() | 差額 |
|----------------------|-----------------|---------|----|
| (1) 現金・預金 | 15,820 | 15,820 | - |
| (2) 未収委託者報酬 | 7,472 | 7,472 | - |
| (3) 未収収益 | 342 | 342 | - |
| (4) 投資有価証券 其他有価証券 | 7,091 | 7,091 | - |
| (5) 未払金 | (3,862) | (3,862) | - |
| (6) 未払費用 | (3,282) | (3,282) | - |

()負債に計上されているものについては、()で示しております。

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬並びに(3) 未収収益

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

投資信託は基準価額によっております。

(5) 未払金及び(6) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2 非上場株式等（貸借対照表計上額79百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4)投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

3 子会社株式（貸借対照表計上額20,042百万円）及び関連会社株式（貸借対照表計上額2,892百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上記の表には含めておりません。

4 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

| | 1年以内 | 1年超 5年以内 | 5年超 10年以内 | 10年超 |
|----------------|--------|-------------|--------------|------|
| 現金・預金 | 15,820 | - | - | - |
| 未収委託者報酬 | 7,472 | - | - | - |
| 未収収益 | 342 | - | - | - |
| 投資有価証券 投資信託 | - | 385 | 1,299 | 920 |
| 合計 | 23,635 | 385 | 1,299 | 920 |

第55期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

預金に関しては10数行に分散して預入れしておりますが、これら金融機関の破綻及び債務不履行等による信用リスクに晒されており、また一部外貨建て預金を保有しているため為替変動リスクにも晒されております。営業債権である未収委託者報酬、未収収益に関しては、それらの源泉である預り純資産を数行の信託銀行に分散して委託しておりますが、信託銀行はその受託資産を自己勘定と分別して管理しているた

め、仮に信託銀行が破綻または債務不履行等となった場合でも、これら営業債権が信用リスクに晒されることは無いと考えております。また、グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されます。投資有価証券は、主に自己で設定した投資信託へのシードマネーの投入によるものであります。これら投資信託の投資対象は株式、公社債等のため、価格変動リスクや信用リスク、流動性リスク、為替変動リスクに晒されております。

営業債務である未払金（未払手数料）、未払費用に関しては、すべてが1年以内の支払期日であります。未払金（未払手数料）については、債権（未収委託者報酬）を資金回収した後に、販売会社へ当該債務を支払うフローとなっているため、流動性リスクに晒されることは無いと考えております。また未払費用のうち運用再委託先への顧問料支払に係るものについてもほとんどのものが、未払金同様のフローのため、流動性リスクに晒されることは無いと考えております。それ以外の営業費用及び一般管理費に係る未払費用に関しては、流動性リスクに晒されており、一部は外貨建て債務があるため、為替の変動リスクにも晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、預金を預入れる金融機関の選定に関しては、短期間の取引が想定される金融機関の場合を除き、相手方の財政状態及び経営成績、または必要に応じて格付等を考慮した上で決定しております。また既に取引が行われている相手方に関しても、定期的に継続したモニタリングを行うことで、相手方の財務状況の悪化等による信用リスクを早期に把握することで、リスクの軽減を図っております。

市場リスク（為替や価格等の変動リスク）の管理

当社は、原則、為替変動や価格変動に係るリスクに対して、ヘッジ取引を行っておりません。外貨建ての営業債権債務について、月次ベースで為替変動リスクを測定し、モニタリングを実施しております。また投資有価証券に関しては、毎月末にそれぞれの時価を算出し、評価損益を把握しております。また、市場の変動等に基づき、今後の一定期間において特定の確率で、金融商品に生じ得る損失額の推計値を把握するため、バリュエーション・アット・リスクを用いた市場リスク管理を週次ベースで実施しております。これらの結果、当社の財政状態、経営成績に与える影響が著しいと判断される場合には、必要に応じて、ヘッジ取引規程に則り、それを回避する目的で、ヘッジ取引を行うことが可能であります。

流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、日々資金残高管理を行っております。また、適時に資金繰予定表を作成・更新するとともに、手許流動性（最低限必要な運転資金）を状況に応じて見直し・維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

2 金融商品の時価等に関する事項

平成26年3月31日（当事業年度の決算日）における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

（単位：百万円）

| | 貸借対照表 計上額() | 時価() | 差額 |
|-----------------------------|-----------------|---------|----|
| (1) 現金・預金 | 17,805 | 17,805 | - |
| (2) 未収委託者報酬 | 7,162 | 7,162 | - |
| (3) 未収収益 | 608 | 608 | - |
| (4) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券 | 7,457 | 7,457 | - |
| (5) 未払金 | (3,404) | (3,404) | - |
| (6) 未払費用 | (3,239) | (3,239) | - |

()負債に計上されているものについては、()で示しております。

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬並びに(3) 未収収益

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 有価証券及び投資有価証券

投資信託は基準価額によっております。

(5) 未払金及び(6) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- 2 非上場株式等（貸借対照表計上額66百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4)有価証券及び投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。
- 3 子会社株式（貸借対照表計上額18,809百万円）及び関連会社株式（貸借対照表計上額2,892百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上記の表には含めておりません。
- 4 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

| | 1年以内 | 1年超 5年以内 | 5年超 10年以内 | 10年超 |
|----------------------|--------|-------------|--------------|------|
| 現金・預金 | 17,805 | - | - | - |
| 未収委託者報酬 | 7,162 | - | - | - |
| 未収収益 | 608 | - | - | - |
| 有価証券及び投資有価証券 投資信託 | 234 | 315 | 1,166 | 973 |
| 合計 | 25,811 | 315 | 1,166 | 973 |

(有価証券関係)

第54期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 子会社株式及び関連会社株式

(単位：百万円)

| | 貸借対照表計上 額 |
|--------|--------------|
| 子会社株式 | 20,042 |
| 関連会社株式 | 2,892 |

(注) 子会社株式及び関連会社株式は市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価を記載しておりません。

2 その他有価証券

(単位：百万円)

| | 種類 | 貸借対照表計上額 | 取得原価 | 差額 |
|--------------------------|------|----------|-------|-----|
| 貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの | 投資信託 | 6,366 | 5,708 | 658 |
| | 小計 | 6,366 | 5,708 | 658 |
| 貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの | 投資信託 | 724 | 821 | 96 |
| | 小計 | 724 | 821 | 96 |
| 合計 | | 7,091 | 6,529 | 561 |

(注) 1 減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合にはすべて減損処理を行い、30%～50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。当事業年度については、該当ございません。

- 2 非上場株式等(貸借対照表計上額 79百万円)については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3 当事業年度中に売却したその他有価証券

(単位:百万円)

| 種類 | 売却額 | 売却益の合計額 | 売却損の合計額 |
|------|-------|---------|---------|
| 株式 | 43 | 35 | 67 |
| 投資信託 | 1,099 | 190 | 17 |
| 合計 | 1,143 | 226 | 84 |

第55期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 子会社株式及び関連会社株式

(単位:百万円)

| | 貸借対照表計上額 |
|--------|----------|
| 子会社株式 | 18,809 |
| 関連会社株式 | 2,892 |

(注) 子会社株式及び関連会社株式は市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価を記載しておりません。

2 その他有価証券

(単位:百万円)

| | 種類 | 貸借対照表計上額 | 取得原価 | 差額 |
|----------------------|------|----------|-------|-----|
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの | 投資信託 | 3,819 | 3,188 | 631 |
| | 小計 | 3,819 | 3,188 | 631 |
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの | 投資信託 | 3,637 | 3,768 | 130 |
| | 小計 | 3,637 | 3,768 | 130 |
| 合計 | | 7,457 | 6,957 | 500 |

(注) 1 減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合にはすべて減損処理を行い、30%~50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。当事業年度については、該当ございません。

- 2 非上場株式等(貸借対照表計上額 66百万円)については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3 当事業年度中に売却したその他有価証券

(単位:百万円)

| 種類 | 売却額 | 売却益の合計額 | 売却損の合計額 |
|------|-------|---------|---------|
| 株式 | 23 | 11 | - |
| 投資信託 | 1,734 | 124 | 12 |
| 合計 | 1,758 | 135 | 12 |

(持分法損益等)

| 第54期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 第55期 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 関連会社に持分法を適用した場合の投資損益等 (単位：百万円) | 関連会社に持分法を適用した場合の投資損益等 (単位：百万円) |
| (1) 関連会社に対する投資の金額 3,069 | (1) 関連会社に対する投資の金額 3,065 |
| (2) 持分法を適用した場合の投資の金額 6,280 | (2) 持分法を適用した場合の投資の金額 7,660 |
| (3) 持分法を適用した場合の投資利益の金額 1,159 | (3) 持分法を適用した場合の投資利益の金額 1,379 |

(退職給付関係)

第54期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出型企業年金制度及びキャッシュバランスプラン型退職金制度を設けております。

2 退職給付債務に関する事項

(単位：百万円)

| | |
|---------------|-------|
| イ 退職給付債務 | 1,101 |
| ロ 未積立退職給付債務 | 1,101 |
| ハ 未認識数理計算上の差異 | 99 |
| ニ 退職給付引当金残高 | 1,001 |

3 退職給付費用に関する事項

(単位：百万円)

| | |
|------------------|-----|
| イ 勤務費用 | 102 |
| ロ 利息費用 | 13 |
| ハ 数理計算上の差異の費用処理額 | 24 |
| ニ 確定拠出型企業年金への掛金 | 171 |
| ホ 退職給付費用合計 | 312 |

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

| | |
|------------------|--------|
| イ 退職給付見込額の期間配分方法 | 勤続期間比例 |
| ロ 割引率 | 0.9% |
| ハ 数理計算上の差異の処理年数 | 10年 |

第55期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出型企業年金制度及びキャッシュバランスプラン型退職金制度を設けております。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

| | | |
|--------------|-------|-----|
| 退職給付債務の期首残高 | 1,101 | 百万円 |
| 勤務費用 | 110 | " |
| 利息費用 | 9 | " |
| 数理計算上の差異の発生額 | 9 | " |
| 退職給付の支払額 | 56 | " |
| 退職給付債務の期末残高 | 1,174 | " |

(2) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

| | | |
|-----------------|-------|-----|
| 退職給付債務 | 1,174 | 百万円 |
| 未積立退職給付債務 | 1,174 | " |
| 未認識数理計算上の差異 | 92 | " |
| 貸借対照表に計上された負債の額 | 1,081 | " |

| | | |
|-----------------|-------|-----|
| 退職給付引当金 | 1,081 | 百万円 |
| 貸借対照表に計上された負債の額 | 1,081 | " |

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

| | | |
|-----------------|-----|-----|
| 勤務費用 | 110 | 百万円 |
| 利息費用 | 9 | " |
| 数理計算上の差異の費用処理額 | 16 | " |
| 確定給付制度に係る退職給付費用 | 137 | " |

(4) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎

| | |
|-----|------|
| 割引率 | 0.8% |
|-----|------|

3 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、176百万円でありました。

(ストックオプション等関係)

第54期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 スtockオプション(新株予約権)の内容、規模及びその変動状況

(1) スtockオプション(新株予約権)の内容

| | 平成21年度ストックオプション(1) | 平成21年度ストックオプション(2) |
|--------------------------|---|----------------------|
| 付与対象者の区分及び人数 | 当社及び関係会社の取締役・従業員 271名 | 当社及び関係会社の取締役・従業員 48名 |
| 株式の種類別のストックオプションの付与数 (注) | 普通株式 19,724,100株 | 普通株式 1,702,800株 |
| 付与日 | 平成22年2月8日 | 平成22年8月20日 |
| 権利確定条件 | 平成24年1月22日(以下「権利行使可能初日」といいます。)、当該権利行使可能初日から1年経過した日の翌日、及び当該権利行使可能初日から2年経過した日の翌日まで原則として従業員等の地位にあることを要し、それぞれ保有する新株予約権の2分の1、4分の1、4分の1ずつ権利確定する。ただし、本新株予約権の行使時において、当社が株式公開していることを要する。 | 同左 |
| 対象勤務期間 | 付与日から、権利行使可能初日から2年を経過した日まで | 同左 |
| 権利行使期間 | 平成24年1月22日から平成32年1月21日まで | 同左 |

| | 平成22年度ストックオプション(1) | 平成23年度ストックオプション(1) |
|--------------|--------------------|-----------------------|
| 付与対象者の区分及び人数 | 当社の従業員 1名 | 当社及び関係会社の取締役・従業員 186名 |

| | | |
|-------------------------|---|---|
| 株式の種類別のストックオプションの付与数（注） | 普通株式 2,310,000株 | 普通株式 6,101,700株 |
| 付与日 | 平成22年8月20日 | 平成23年10月7日 |
| 権利確定条件 | 平成24年1月22日（以下「権利行使可能初日」といいます。）、当該権利行使可能初日から1年経過した日の翌日、及び当該権利行使可能初日から2年経過した日の翌日まで原則として従業員等の地位にあることを要し、それぞれ保有する新株予約権の2分の1、4分の1、4分の1ずつ権利確定する。ただし、本新株予約権の行使時において、当社が株式公開していることを要する。 | 平成25年10月7日（以下「権利行使可能初日」といいます。）、当該権利行使可能初日から1年経過した日の翌日、及び当該権利行使可能初日から2年経過した日の翌日まで原則として従業員等の地位にあることを要し、それぞれ保有する新株予約権の2分の1、4分の1、4分の1ずつ権利確定する。ただし、本新株予約権の行使時において、当社が株式公開していることを要する。 |
| 対象勤務期間 | 付与日から、権利行使可能初日から2年を経過した日まで | 付与日から、権利行使可能初日から2年を経過した日まで |
| 権利行使期間 | 平成24年1月22日から 平成32年1月21日まで | 平成25年10月7日から 平成33年10月6日まで |

（注） 株式数に換算して記載しております。

(2) ストックオプション(新株予約権)の規模及びその変動状況

ストックオプション（新株予約権）の数

| | 平成21年度ストックオプション(1) | 平成21年度ストックオプション(2) |
|----------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成22年2月8日 | 平成22年8月20日 |
| 権利確定前(株) | | |
| 期首 | 19,215,900 | 1,676,400 |
| 付与 | 0 | 0 |
| 失効 | 2,237,400 | 49,500 |
| 権利確定 | 0 | 0 |
| 権利未確定残 | 16,978,500 | 1,626,900 |
| 権利確定後(株) | | |
| 期首 | - | - |
| 権利確定 | - | - |
| 権利行使 | - | - |
| 失効 | - | - |
| 権利未行使残 | - | - |

| | 平成22年度ストックオプション(1) | 平成23年度ストックオプション(1) |
|----------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成22年8月20日 | 平成23年10月7日 |
| 権利確定前(株) | | |
| 期首 | 2,310,000 | 6,091,800 |
| 付与 | 0 | 0 |
| 失効 | 0 | 161,700 |
| 権利確定 | 0 | 0 |
| 権利未確定残 | 2,310,000 | 5,930,100 |
| 権利確定後(株) | | |
| 期首 | - | - |

| | | |
|--------|---|---|
| 権利確定 | - | - |
| 権利行使 | - | - |
| 失効 | - | - |
| 権利未行使残 | - | - |

(注) 株式数に換算して記載しております。

単価情報

| | 平成21年度ストックオプション(1) | 平成21年度ストックオプション(2) |
|-------------------------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成22年 2月 8日 | 平成22年 8月20日 |
| 権利行使価格(円) | 625 | 625 |
| 付与日における公正な評価単価(円) (注) 1 | 0 | 0 |

| | 平成22年度ストックオプション(1) | 平成23年度ストックオプション(1) |
|-------------------------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成22年 8月20日 | 平成23年10月7日 |
| 権利行使価格(円) | 625 | 737 (注) 3 |
| 付与日における公正な評価単価(円) (注) 1 | 0 | 0 |

(注) 1 公正な評価単価に代え、本源的価値（取引事例比準法による評価額と行使価格との差額）の見積りによっております。

- 2 スtockオプションの単位当たりの本源的価値による算定を行った場合の本源的価値の合計額
当事業年度末における本源的価値の合計額 - 百万円
- 3 株式公開価格が737円（割当日後、株式の分割又は併合が行われたときは、当該金額は、当該株式の分割又は併合の内容を適切に反映するよう調整される。）を上回る金額に定められた場合には、株式公開日において、権利行使価格は株式公開価格と同一の金額に調整されます。

第55期(自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)

1 スtockオプション(新株予約権)の内容、規模及びその変動状況

(1) スtockオプション(新株予約権)の内容

| | 平成21年度ストックオプション(1) | 平成21年度ストックオプション(2) |
|--------------------------|--|--------------------------|
| 付与対象者の区分及び人数 | 当社及び関係会社の 取締役・従業員 271名 | 当社及び関係会社の 取締役・従業員 48名 |
| 株式の種類別のストックオプションの付与数 (注) | 普通株式 19,724,100株 | 普通株式 1,702,800株 |
| 付与日 | 平成22年 2月 8日 | 平成22年 8月20日 |
| 権利確定条件 | 平成24年 1月22日（以下「権利行使可能初日」といいます。） 、当該権利行使可能初日から1年経過した日の翌日、及び当該権利行使可能初日から2年経過した日の翌日まで原則として従業員等の地位にあることを要し、それぞれ保有する新株予約権の2分の1、4分の1、4分の1ずつ権利確定する。ただし、本新株予約権の行使時において、当社が株式公開していることを要する。 | 同左 |
| 対象勤務期間 | 付与日から、権利行使可能初日から2年を経過した日まで | 同左 |
| 権利行使期間 | 平成24年 1月22日から 平成32年 1月21日まで | 同左 |

| | 平成22年度ストックオプション(1) | 平成23年度ストックオプション(1) |
|--------------------------|---|---|
| 付与対象者の区分及び人数 | 当社の従業員 1名 | 当社及び関係会社の取締役・従業員 186名 |
| 株式の種類別のストックオプションの付与数 (注) | 普通株式 2,310,000株 | 普通株式 6,101,700株 |
| 付与日 | 平成22年 8月20日 | 平成23年10月7日 |
| 権利確定条件 | 平成24年 1月22日（以下「権利行使可能初日」といいます。）、「当該権利行使可能初日から1年経過した日の翌日、及び当該権利行使可能初日から2年経過した日の翌日まで原則として従業員等の地位にあることを要し、それぞれ保有する新株予約権の2分の1、4分の1、4分の1ずつ権利確定する。ただし、本新株予約権の行使時において、当社が株式公開していることを要する。 | 平成25年10月 7日（以下「権利行使可能初日」といいます。）、「当該権利行使可能初日から1年経過した日の翌日、及び当該権利行使可能初日から2年経過した日の翌日まで原則として従業員等の地位にあることを要し、それぞれ保有する新株予約権の2分の1、4分の1、4分の1ずつ権利確定する。ただし、本新株予約権の行使時において、当社が株式公開していることを要する。 |
| 対象勤務期間 | 付与日から、権利行使可能初日から2年を経過した日まで | 付与日から、権利行使可能初日から2年を経過した日まで |
| 権利行使期間 | 平成24年 1月22日から平成32年 1月21日まで | 平成25年10月 7日から平成33年10月 6日まで |

(注) 株式数に換算して記載しております。

(2) スtockオプション(新株予約権)の規模及びその変動状況

ストックオプション（新株予約権）の数

| | 平成21年度ストックオプション(1) | 平成21年度ストックオプション(2) |
|----------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成22年 2月 8日 | 平成22年 8月20日 |
| 権利確定前(株) | | |
| 期首 | 16,978,500 | 1,626,900 |
| 付与 | 0 | 0 |
| 失効 | 1,075,800 | 59,400 |
| 権利確定 | 0 | 0 |
| 権利未確定残 | 15,902,700 | 1,567,500 |
| 権利確定後(株) | | |
| 期首 | - | - |
| 権利確定 | - | - |
| 権利行使 | - | - |
| 失効 | - | - |
| 権利未行使残 | - | - |

| | 平成22年度ストックオプション(1) | 平成23年度ストックオプション(1) |
|----------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成22年 8月20日 | 平成23年10月 7日 |
| 権利確定前(株) | | |
| 期首 | 2,310,000 | 5,930,100 |
| 付与 | 0 | 0 |
| 失効 | 0 | 541,200 |
| 権利確定 | 0 | 0 |
| 権利未確定残 | 2,310,000 | 5,388,900 |
| 権利確定後(株) | | |
| 期首 | - | - |

| | | |
|--------|---|---|
| 権利確定 | - | - |
| 権利行使 | - | - |
| 失効 | - | - |
| 権利未行使残 | - | - |

(注) 株式数に換算して記載しております。

単価情報

| | 平成21年度ストックオプション(1) | 平成21年度ストックオプション(2) |
|-------------------------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成22年 2 月 8 日 | 平成22年 8 月20日 |
| 権利行使価格(円) | 625 | 625 |
| 付与日における公正な評価単価(円) (注) 1 | 0 | 0 |

| | 平成22年度ストックオプション(1) | 平成23年度ストックオプション(1) |
|-------------------------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成22年 8 月20日 | 平成23年10月7日 |
| 権利行使価格(円) | 625 | 737 (注) 3 |
| 付与日における公正な評価単価(円) (注) 1 | 0 | 0 |

(注) 1 公正な評価単価に代え、本源的価値（取引事例比準法による評価額と行使価格との差額）の見積りによっております。

- 2 スtockオプションの単位当たりの本源的価値による算定を行った場合の本源的価値の合計額
当事業年度末における本源的価値の合計額 - 百万円
- 3 株式公開価格が737円（割当日後、株式の分割又は併合が行われたときは、当該金額は、当該株式の分割又は併合の内容を適切に反映するよう調整される。）を上回る金額に定められた場合には、株式公開日において、権利行使価格は株式公開価格と同一の金額に調整されます。

(税効果会計関係)

| | |
|------------------------|------------------------|
| 第54期 (平成25年 3 月31日) | 第55期 (平成26年 3 月31日) |
|------------------------|------------------------|

| 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 | (単位：百万円) | 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 | (単位：百万円) |
|---|----------|--|----------|
| 繰延税金資産(流動) | | 繰延税金資産(流動) | |
| 賞与引当金繰入超過額 | 672 | 賞与引当金繰入超過額 | 689 |
| その他 | 196 | その他 | 294 |
| 小計 | 869 | 小計 | 984 |
| 繰延税金資産(固定) | | 繰延税金資産(固定) | |
| 投資有価証券評価損 | 149 | 投資有価証券評価損 | 148 |
| 退職給付引当金超過額 | 361 | 関係会社株式評価損 | 1,665 |
| 固定資産減価償却超過額 | 174 | 退職給付引当金超過額 | 385 |
| その他 | 75 | 固定資産減価償却超過額 | 158 |
| 小計 | 760 | その他 | 34 |
| 繰延税金資産小計 | 1,630 | 小計 | 2,391 |
| 評価性引当金 | 61 | 繰延税金資産小計 | 3,375 |
| 繰延税金資産合計 | 1,568 | 評価性引当金 | 1,665 |
| | | 繰延税金資産合計 | 1,710 |
| 繰延税金負債(固定) | | 繰延税金負債(固定) | |
| その他有価証券評価差額金 | 199 | その他有価証券評価差額金 | 200 |
| 繰延税金負債合計 | 199 | 繰延税金負債合計 | 200 |
| 繰延税金資産の純額 | 1,369 | 繰延税金資産の純額 | 1,510 |
| 2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳 | | 2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳 | |
| 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。 | | 法定実効税率 | 38.0% |
| | | (調整) | |
| | | 評価性引当金の増減 | 46.6% |
| | | 交際費等永久に損金に算入されない項目 | 3.7% |
| | | 受取配当金等永久に益金に算入されない項目 | 12.9% |
| | | 税率変更による期末繰延税金資産の減額修正 | 1.9% |
| | | 海外子会社の留保利益の影響額等 | 6.9% |
| | | 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 84.2% |

| 第54期 (平成25年3月31日) | 第55期 (平成26年3月31日) |
|----------------------|--|
| - | <p>3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正</p> <p>「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)の施行に伴い、「復興特別法人税に関する政令の一部を改正する政令」(平成26年政令第151号)が平成26年3月31日に公布されたことにより、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、平成26年4月1日に開始する事業年度において解消が見込まれる一時差異について、当社が使用した法定実効税率は38.0%から35.6%に変更されております。この結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は65百万円減少し、その他有価証券評価差額金の金額が1百万円、法人税等調整額の金額が63百万円、それぞれ増加しております。</p> |

（関連当事者情報）

第54期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(ア) 財務諸表提出会社の親会社

重要な該当事項はありません。

(イ) 財務諸表提出会社の子会社

| 種類 | 会社等の名称又は氏名 | 所在地 | 資本金又は出資金(千SGD) | 事業の内容 | 議決権等の所有(被所有)割合(%) | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額(百万円) | 科目 | 期末残高(百万円) |
|-----|--|---------|----------------|-------------|-------------------|-----------|-----------------------|------------------------|---------------|------------------------|
| 子会社 | Nikko Asset Management International Limited | シンガポール国 | 252,000 | アセットマネジメント業 | 直接 100.00 | 資金の貸付 | 資金の貸付(シンガポールドル貸建)(注1) | 525 (千SGD 8,000) | 関係会社 短期貸付金 | 606 (千SGD 8,000) |
| | | | | | | | 貸付金利息(シンガポールドル貸建)(注1) | 5 (千SGD 76) | 未収収益 | 5 (千SGD 76) |

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

- 融資枠SGD11百万、返済期間1年間のリボルビング・ローンで、金利は市場金利を勘案して決定しております。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

三井住友トラスト・ホールディングス株式会社（東京証券取引所等に上場）

三井住友信託銀行株式会社（非上場）

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

当事業年度において、重要な関連会社は融通(ロントン)基金管理有限公司であり、その要約財務情報は以下のとおりであります。なお、下記数値は平成24年12月31日に終了した年度の財務諸表を当日の直物為替相場で円貨に換算したものであります。

| | |
|----------|-----------|
| 資産合計 | 10,930百万円 |
| 負債合計 | 1,103百万円 |
| 純資産合計 | 9,826百万円 |
| 営業収益 | 7,917百万円 |
| 税引前当期純利益 | 2,801百万円 |
| 当期純利益 | 2,091百万円 |

第55期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(ア) 財務諸表提出会社の親会社

重要な該当事項はありません。

(イ) 財務諸表提出会社の子会社

| 種類 | 会社等の名称又は氏名 | 所在地 | 資本金又は出資金(千SGD) | 事業の内容 | 議決権等の所有(被所有)割合(%) | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額(百万円) | 科目 | 期末残高(百万円) |
|-----|--|---------|----------------|-------------|-------------------|-----------|-----------------------|---------------------------------|----------------------------|-------------------------|
| 子会社 | Nikko Asset Management International Limited | シンガポール国 | 292,000 | アセットマネジメント業 | 直接 100.00 | 資金の貸付 | 資金の貸付(シンガポールドル貸建)(注1) | 398 (千 SGD 5,059) (注2) | 関係会社 短期貸付金 | 240 (千 SGD 2,940) |
| | | | | | | | 貸付金利息(シンガポールドル貸建)(注1) | 15 (千 SGD 192) | 未収収益 | 5 (千 SGD 64) |
| | | | | | | | - | 増資の引受(注3) | 3,266 (千 SGD 40,000) | - |

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

- 融資枠SGD11百万、返済期間1年間のリボルビング・ローンで、金利は市場金利を勘案して決定しております。
- 資金の貸付に係る取引金額 398百万円(5,059千 SGD)の内訳は、貸付240百万円(2,940千 SGD)及び返済 638百万円(8,000千 SGD)であります。
- Nikko Asset Management International Limitedの行った40,000,000株の新株発行増資を、1株につき1シンガポールドルで当社が引受けたものであります。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

三井住友トラスト・ホールディングス株式会社（東京証券取引所等に上場）

三井住友信託銀行株式会社（非上場）

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

当事業年度において、重要な関連会社は融通(ロントン)基金管理有限公司であり、その要約財務情報は以下のとおりであります。なお、下記数値は平成25年12月31日に終了した年度の財務諸表を当日の直物為替相場で円貨に換算したものであります。

| | |
|----------|-----------|
| 資産合計 | 15,790百万円 |
| 負債合計 | 1,713百万円 |
| 純資産合計 | 14,076百万円 |
| 営業収益 | 11,350百万円 |
| 税引前当期純利益 | 4,212百万円 |
| 当期純利益 | 3,096百万円 |

(セグメント情報等)

セグメント情報

第54期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

当社はアセットマネジメント業の単一セグメントであるため、記載しておりません。

第55期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

当社はアセットマネジメント業の単一セグメントであるため、記載しておりません。

関連情報

第54期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

当社の製品及びサービスはアセットマネジメント業として単一であるため、記載しておりません。

2 地域ごとの情報

(1) 営業収益

国内の外部顧客への営業収益に分類した額が営業収益の90%超であるため、記載を省略しておりません。

(2) 有形固定資産

国外に所在している有形固定資産が無いため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

営業収益の10%以上を占める単一の外部顧客が無いため、記載しておりません。

第55期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

当社の製品及びサービスはアセットマネジメント業として単一であるため、記載しておりません。

2 地域ごとの情報

(1) 営業収益

国内の外部顧客への営業収益に分類した額が営業収益の90%超であるため、記載を省略しておりません。

(2) 有形固定資産

国外に所在している有形固定資産が無いため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

営業収益の10%以上を占める単一の外部顧客が無いため、記載しておりません。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

第54期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

第55期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

第54期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

第55期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

第54期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

第55期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

| 項目 | 第54期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 第55期 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|--------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 1株当たり純資産額 | 235円69銭 | 231円23銭 |
| 1株当たり当期純利益金額 | 14円35銭 | 2円76銭 |

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、新株予約権の残高はありますが、当社株式が非上場であるため、期中平均株価が把握できませんので、希薄化効果を算定できないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 第54期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | 第55期 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) |
|--|---|---|
| 当期純利益(百万円) | 2,827 | 544 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | - | - |
| 普通株式に係る当期純利益(百万円) | 2,827 | 544 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 196,903 | 196,903 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要 | 平成21年度ストックオプション(1) 16,978,500株、平成21年度ストックオプション(2) 1,626,900株、平成22年度ストックオプション(1) 2,310,000株、第1回新株予約権2,955,200株、平成23年度ストックオプション(1) 5,930,100株 | 平成21年度ストックオプション(1) 15,902,700株、平成21年度ストックオプション(2) 1,567,500株、平成22年度ストックオプション(1) 2,310,000株、第1回新株予約権2,955,200株、平成23年度ストックオプション(1) 5,388,900株 |

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 第54期 (平成25年3月31日) | 第55期 (平成26年3月31日) |
|---------------------------------|----------------------|----------------------|
| 純資産の部の合計額(百万円) | 46,408 | 45,531 |
| 純資産の部の合計額から控除する金額(百万円) | - | - |
| 普通株式に係る期末の純資産額(百万円) | 46,408 | 45,531 |
| 1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(千株) | 196,903 | 196,903 |

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

< 更新後 >

(1) 受託会社

| 名 称 | 資本金の額 (平成25年9月末現在) | 事業の内容 |
|--------------|-----------------------|---|
| 三井住友信託銀行株式会社 | 342,037百万円 | 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。 |

< 再信託受託会社の概要 >

名称 : 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社

資本金の額 : 51,000百万円（平成25年9月末現在）

事業の内容 : 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

再信託の目的 : 原信託契約にかかる信託業務の一部（信託財産の管理）を原信託受託者から再信託受託者（日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社）へ委託するため、原信託財産のすべてを再信託受託者へ移管することを目的とします。

< 更新後 >

(2) 販売会社

| 名 称 | 資本金の額 (平成25年9月末現在) | 事業の内容 |
|-----------------------------|---------------------------|-------------------------------|
| エイチ・エス証券株式会社 | 3,000百万円 | 金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。 |
| S M B C 日興証券株式会社 | 10,000百万円 | |
| S M B C フレンド証券株式会社 | 27,270百万円 | |
| 株式会社 S B I 証券 | 47,937百万円 | |
| 光世証券株式会社 | 12,000百万円 | |
| 静岡東海証券株式会社 | 600百万円 | |
| 東海東京証券株式会社 | 6,000百万円 | |
| 内藤証券株式会社 | 3,002百万円 (平成26年3月1日現在) | |
| P W M 日本証券株式会社 | 3,000百万円 | |
| みずほ証券株式会社 1 | 125,167百万円 | |
| 三菱 U F J モルガン・スタンレー証券株式会社 1 | 40,500百万円 | |
| 楽天証券株式会社 | 7,495百万円 | |
| 株式会社愛媛銀行 | 19,078百万円 | |
| 株式会社埼玉りそな銀行 | 70,000百万円 | |
| 株式会社静岡銀行 1 | 90,845百万円 | |
| ソニー銀行株式会社 | 31,000百万円 | |
| 株式会社千葉興業銀行 | 57,941百万円 | |
| 株式会社トマト銀行 | 14,310百万円 | |
| 株式会社福岡銀行 1 | 82,329百万円 | |

| | | |
|----------------|------------|---|
| 株式会社八千代銀行 | 43,734百万円 | |
| 株式会社りそな銀行 | 279,928百万円 | 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。 |
| 三井住友信託銀行株式会社 1 | 342,037百万円 | |

1 募集の取扱いを行いません。

3【資本関係】

<更新後>

(1) 受託会社

三井住友信託銀行株式会社は、日興アセットマネジメント株式会社の発行済株式総数の91.29%を保有しております。（平成25年9月末現在）

<更新後>

(2) 販売会社

三井住友信託銀行株式会社は、日興アセットマネジメント株式会社の発行済株式総数の91.29%を保有しております。（平成25年9月末現在）

独立監査人の中間監査報告書

平成26年5月28日

日興アセットマネジメント株式会社

取締役会御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 佐々木 貴 司
業務執行社員指定社員 公認会計士 鶴 田 光 夫
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている日興アクティブバリュウの平成25年10月26日から平成26年4月25日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、日興アクティブバリュウの平成26年4月25日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成25年10月26日から平成26年4月25日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

日興アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注)1. 上記は、当社が、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは中間監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成26年6月13日

日興アセットマネジメント株式会社
取締役会御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 羽 太 典 明
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 秋 宗 勝 彦
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている日興アセットマネジメント株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第55期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日興アセットマネジメント株式会社の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注)1.上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。